5　防災教育視聴覚教材等

【徳島県視聴覚ライブラリー視聴覚教材一覧】

番号	題　　名	時　間	対　　象	16ミリ・ビデオ・DVD
	地　　震			
1	地震への備えが命を守る	２１分	共　通	DVD
2	津波から生き延びるために	１５分	〃	〃
3	中央構造線活断層系と地震	９０分	〃	〃
4	必須防災知識	８０分	〃	〃
5	伝えていきたい防災力	２３分	〃	〃
6	改訂版　大地震発生！	１８分	〃	〃
7	3.11 東日本大震災から学ぶ津波･命を守る心構え	２０分	〃	〃
8	もし今，地震が起きたら	１９分	〃	〃
9	20 世紀日本大災害の記録　地震噴火編	１８０分	〃	〃
１０	地球は生きている	２９分	〃	ビデオ
１１	地震と災害	２０分	〃	〃
１２	大地のつくりと変化	２０分	〃	〃
１３	大地が動く　～地震が起こるしくみ～	２０分	少　年	〃
１４	地震	３０分	共　通	〃
１５	あなたを守る知恵と行動	２５分	〃	〃
１６	本気で地震対策していますか	１５分	〃	〃
１７	地震防災待ったなし！	２１分	〃	〃
１８	激震の記録①	４８分	〃	〃
１９	激震の記録②	４５分	〃	〃
２０	残された日記	５６分	〃	〃
２１	稲むらの火	１６分	〃	〃
２２	とつとこハム太郎の大事だ!!防災訓練	１３分	少　年	〃
２３	子ども放送局ﾆｭｰｽ，ﾚｯﾂｵｰﾌﾟﾝｻﾞﾄﾞｱｰ！等	５０分	少　年	〃
２４	寄り合い防災講座　住宅・建築物の耐震化	９０分	共　通	〃
２５	寄り合い防災講座　南海地震の特徴	９０分	〃	〃
２６	南海地震の再来	９０分	〃	〃
２７	火山	６０分	〃	〃
２８	地震予知への道	２７分	共　通	１６ミリ
２９	地震の波・山の生い立ちを知る	１０分	〃	〃
３０	マグニチュード 7.9　地震予知の科学	２７分	〃	〃
３１	地震とぼくたち	２０分	少　年	〃
３２	地震の知識と対策	３１分	共　通	〃
３３	大地震　～マグニチュードの証言～	１９分	〃	〃

【徳島県視聴覚ライブラリー視聴覚教材一覧】

番号	題　　名	時　間	対　　象	16ミリ・ビデオ・DVD
３４	地震予知	３０分	〃	〃
３５	阪神大震災	３０分	〃	〃
３６	大地震が学校をおそった	２０分	少　年	〃
３７	地震!!あなたはどうする	２１分	共　通	〃
３８	ロロとモモのじしんとかじのおはなし	１８分	少　年	〃
３９	地震!!あなたができること	２１分	〃	〃
４０	トンクルピーのじしんようじん	１１分	〃	〃
	台　　風（水害）			
1	ＤＶＤ理科データベース　access ④	２６分	共　通	ＤＶＤ
2	20 世紀日本大災害の記録　台風	１８０分	〃	〃
3	地球は生きている	２９分	〃	ビデオ
4	やってみよう何でも実験①	５１分	少　年	〃
5	天気の変わり方とその予想	２０分	共　通	〃
6	徳島県で発生した土砂災害について	９０分	〃	〃
7	川と私たち	２６分	〃	１６ミリ
8	日本の気候と自然のようす	２０分	少　年	〃
9	天気の変化シリーズ　～台風～	２４分	共　通	〃
	火　　災			
1	消防官	２４分	共　通	ＤＶＤ
2	十六地蔵物語	２６分	〃	ビデオ
3	今一度、火の用心	２０分	〃	〃
4	煙火災と有毒ガス	２０分	〃	１６ミリ
5	しまじろうの消防隊	１０分	少　年	〃
6	ドラマでわかる初期対応	２６分	共　通	〃
7	ロロとモモのじしんとかじのおはなし	１８分	少　年	〃
8	地震とぼくたち	２０分		〃

【徳島県視聴覚ライブラリー視聴覚教材一覧】

番号	題　　名	時　間	対　　象	16ミリ・ビデオ・DVD
	一　般（救急）			
1	救急救命士	２４分	共　通	DVD
2	知っておきたい子どもの安全と応急処置	３３分	〃	〃
3	応急手当	２２分	〃	ビデオ
4	応急手当の基本１	３２分	〃	〃
5	応急手当の基本２	２７分	〃	〃
6	交通事故のﾌｧｰｽﾄｴｲﾄﾞ知ってほしい応急手当	１７分	〃	〃
7	応急処置１	２５分	〃	〃
8	応急処置２	２５分	〃	〃
9	応急手当と意義の手順	１２分	〃	〃
１０	創傷とその処置・止血法	１０分	〃	〃
１１	乳幼児の病気と事故	２０分	〃	〃
１２	これだけは知っておきたい応急手当	２０分	〃	〃
１３	やけどの手当て	１１分	〃	〃
１４	包帯法	１３分	〃	〃
１５	きずの手当て	１１分	〃	〃
１６	意識がない場合の手当て	１２分	〃	〃
１７	応急処置	１８分	〃	〃
１８	家庭の事故と救急処置	２８分	〃	16ミリ
１９	救急看護１	１０分	〃	〃
２０	救急処置	２４分	少　年	〃
２１	家庭の応急手当　いざというときのために	２７分	共　通	〃
２２	救命　応急手当	２３分	〃	〃

※問い合わせ　徳島県視聴覚ライブラリー　℡０８８－６７２－５４６１

板野郡板野町犬伏東谷１－７（県立総合教育センター内）

貸し出しビデオ等一覧（ジャンル別）

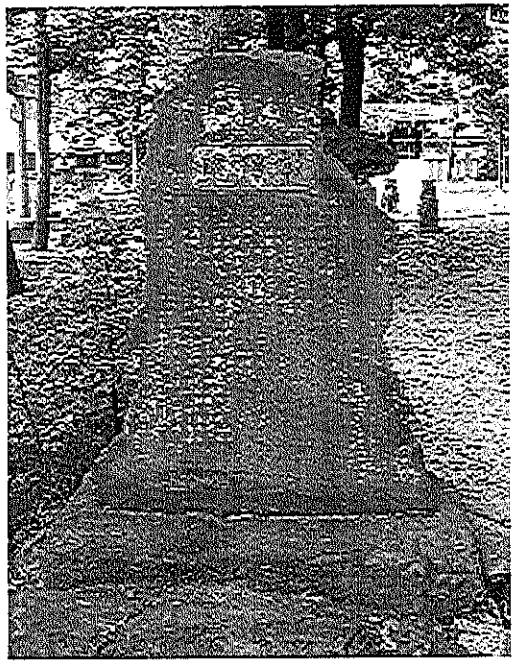
県立防災センター

番号	ｼﾞｬﾝﾙ	タイトル	映像の時間 作成年	映像の内容
1	地震	２０世紀日本の地震災害	４０分 1995年	20世紀に日本を襲った数々の大地震や津波などの災害の映像記録。
2	地震	阪神・淡路大震災　創造的復興１０年の歩み ～共に生きる社会をめざして～	２５分 2005年	阪神・淡路大震災からの復興10年の記録。参画と協働の”創造的市民社会”づくりを発信する。
3	地震	その時、あなたはどうする！ 緊急地震速報のしくみと心得	１０分 2007年	平成19年10月から運用を開始する緊急地震速報のしくみや、緊急地震速報を見聞きしたときの対応を状況ごとに解説する。
4	地震	東海・東南海・南海地震の連動性評価研究	2009年	東海・東南海・南海地震が連動して地震が発生したときのメカニズムを詳しく解説。
5	地震	あなたの街を襲う大地震 検証・震度６弱・被害軽減・駿河湾の地震	22分 2010年	防災対策が減災につながった例や、東海・東南海・南海地震が同時発生した時の規模やメカニズムをCGやｼｭﾐﾚｰｼｮﾝ映像を交え、紹介。
6	地震	【中学校指導用教材】地震防災ビデオ 大地震に備える	２５分 2009年	地震を感じた時にどうすればよいか。中学校向けに、地震防災や、防災訓練を行っている学校の事例を紹介。
7	地震	【小学校指導用教材】地震防災ビデオ 大地じしんから命を守ろう	20分 2009年	地震時の避難行動を「学校で」「街や家で」と場面別に紹介。また、避難訓練を実施している学校の取り組みや避難行動例を紹介。
8	地震	【中・高等学校指導用教材】地震防災ＤＶＤ 大地震と津波に備える	２４分 2012年	大地震や津波が起こったときに、どう行動すればよいのか。さまざまなケーススタディーとＮＨＫの資料映像を用いて、必要な行動や備えについて分かりやすく紹介。
9	地震	【小学校指導用教材】地震防災ＤＶＤ 地震と津波から命を守る	２１分 2012年	大地震や津波が起こったときに、どう行動すればよいのか。さまざまなケーススタディーとＮＨＫの資料映像を用いて、必要な行動や備えについて分かりやすく紹介。
10	地震	大地震発生！ ー大切な命を守るためにー	２２分 2007年	地震被災者からの体験談から、耐震補強や転倒防止のポイント、自主防災組織の意義や活動など、本当に学ぶべき教訓を探る。
11	地震	これから起こりうる大規模災害に備える ～東日本大震災をふまえて～ （片田　敏孝）	２２分 2011年	片田　敏孝教授（群馬大学大学院工学研究科）の講演記録。（H23.6.18開催）
12	地震	語り継ぐ・昭和南海地震 (防災教育チャレンジプラン)	DSK1:63分29秒 DSK2:56分46秒 2010年	昭和南海地震の体験談 （西の地防災きずな会・徳島文理大学・徳島大学と連携）
13	地震	平成１９年度　四国防災トップセミナー 大規模地震・津波対策～災害時発生後の応急対策を考える～	ダイジェスト 17分30秒 基調講演 約1時間 意見交換会 約2時間25分 2007年	・基調講演「東南海・南海地震に備える-住民と築く災害に強い地域社会-」 ・意見交換会「大規模地震・津波対策～災害発生後の応急対策を考える～」
14	地震・津波	津波から命を守るために！	１７分 2004年	津波実験をとおしてその威力をわかりやすく解説。
15	地震・津波	鵠津波体験者座談会　恐怖の大津波	1時間 12分 2006年	1946年の昭和南海地震による津波、1960年のチリ地震津波により被害を受けた、阿南市橘町鵠地区の津波体験者による座談会。

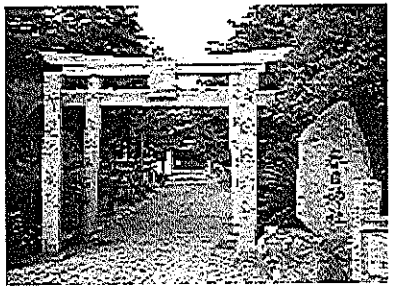
春日神社「敬渝碑」

（1854年安政南海地震）

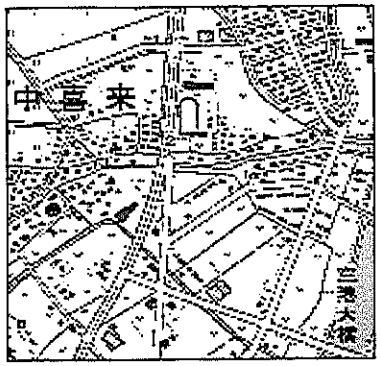
所在地　板野郡松茂町中喜来字牛飼野西ノ越30　春日神社境内
建　立　安政3年(1856)



敬喩碑



中喜来春日神社



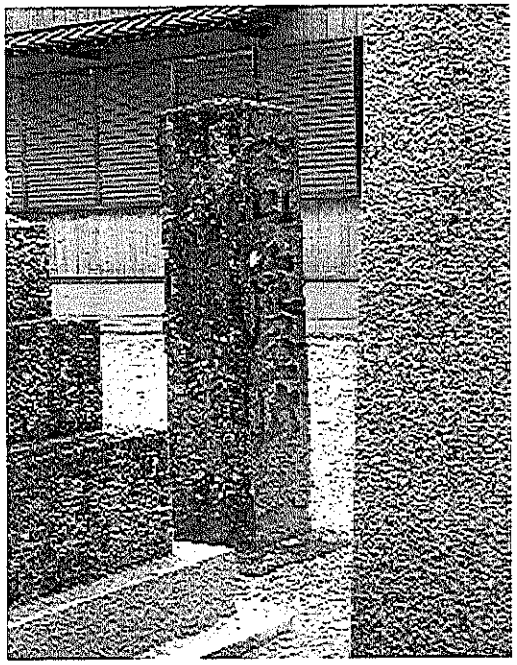
板野郡松茂町の国道11号沿いの春日神社境内に、敬渝碑は建っています。「敬渝」には「変をおろそかにしない」という意味があり、安政南海地震(1854.12.24)の様子が漢詩で刻まれています。「山は鳴り大地が揺れ、寺社や人家が多く倒れ、水が噴き出し（液状化現象）、火災も発生、津波により田や桑畑は海のようになった。恐ろしくあの世に陥るくらいの惨状である。さらに、厳しい寒さが骨身に沁み、寝具、食糧も無くて飢えていた。地震の翌日には、人々は疲れ果て、流言を流す者もいたが、被災者のために炊き出しを施す人もいた。余震は翌年になっても続いた。」などと刻まれています。

教訓　海岸近くに住む人は、南海地震が起きれば、地震の大きな揺れ、それに伴う液状化現象や火災の被害ばかりでなく、津波被害にも注意が必要です。このような悲惨な状況の中でも、共に助け合う共助の精神は今でも大切です。

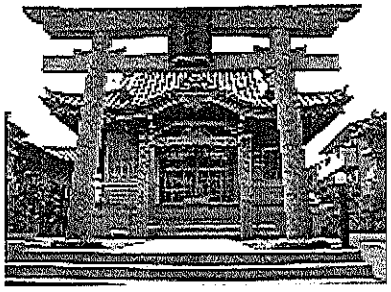
蛭子神社「百度石」

（1854年安政南海地震）

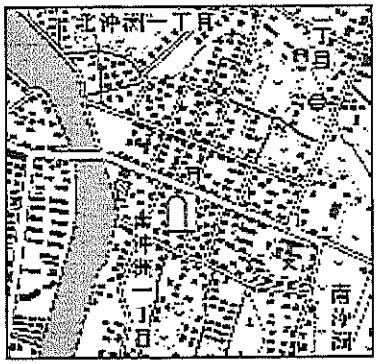
所在地　徳島市南沖洲1-2　蛭子神社境内
建　立　文久元年(1861) 9月　　移　転　平成15年(2003) 3月3日



百度石



蛭子神社



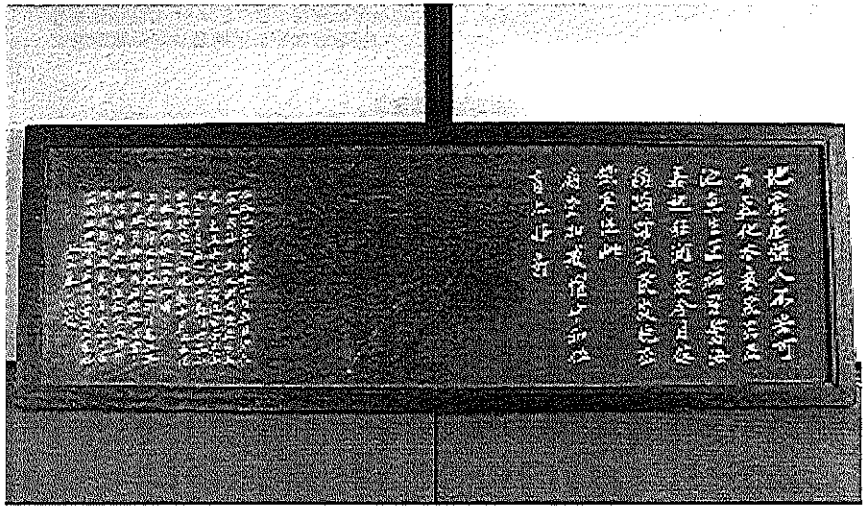
徳島市南沖洲の新しい蛭子神社境内に移転された百度石に、安政南海地震(1854.12.24)の様子が刻まれています。砂岩の劣化が激しく、現在では4面のうち2面は剥落しています。「大地震に驚いた人々は、竹藪に逃げ込んだ。津波が来ると騒いで、驚いて船で逃げようとして船が転覆し、命を失った人がいた。津波の際には絶対船に乗ってはいけない。また、家が倒壊し炬燵（こたつ）や竈（かまど）からの出火することも多かったので、そのような時には、冷静になって火を消すことも肝心である。百年が経つ頃にはこのような大地震が起きるので気を付けよ。」などと刻まれていました。

教訓　南海地震はおよそ100年周期で繰り返し起きています。大地震が起きた時には、冷静に火を消すこと。また、津波の際には、絶対に船に乗って避難してはいけません。

長願寺「扁額」

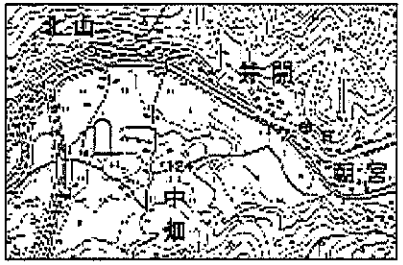
（1854年安政南海地震）

所在地　名東郡佐那河内村上字久保井101　長願寺
奉　納　不　詳



扁額

佐那河内村から神山町に抜ける新しいバイパスの近くに、新装なった長願寺があります。ここには、蜂須賀家の家老賀島家の大書院に使われていた戸板で作られた「扁額」に、安政南海地震(1854.12.24)の様子が記されています。それには、後世の人が忘れないように、「大地震で多くの家屋が倒壊、津波により海辺の家屋が流出、徳島城下や小松島では大火災が発生し、数千戸の家屋が焼失した。」などと記されています。

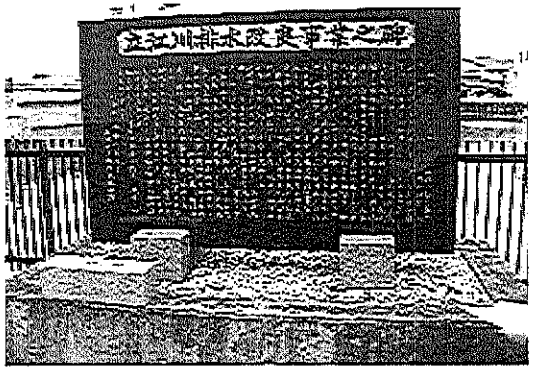


教訓　安政南海地震で、徳島県下で死者が最も多かったのは徳島市です。当時の徳島城周辺は人口が多く、家屋も密中しており、地震後に各所で発生した火災により、死者73名、負傷者131名を出しています。家屋が密集している地域では、地震時に火災への備えをおろそかにしてはなりません。

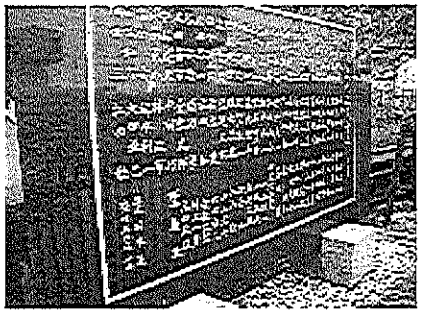
「立江川排水改良事業之碑」

（1946年昭和南海地震）

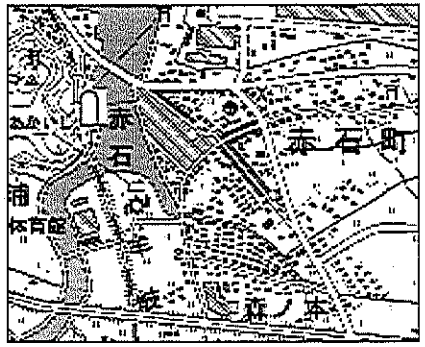
所在地　小松島市赤石町3番　立江川排水機場敷地内
建　立　昭和53年(1978)6月吉日



前面



背面



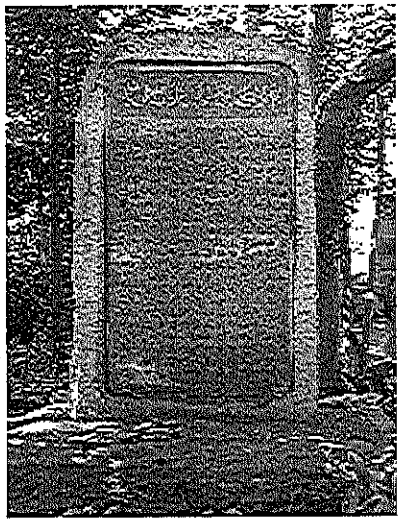
小松島市赤石町の阿波赤石駅横の立江川排水機場敷地内に、昭和南海地震(1946.12.21)により地盤沈下が起き、そのために生じた塩水や雨水の冠水被害対策として行われた排水改良事業の碑が建てられています。

教訓　地震時の地盤沈下による大規模な農地冠水塩害対策には、排水機、樋門、排水路の整備等のハード対策も必要です。

立江八幡神社「農地災害復旧碑」

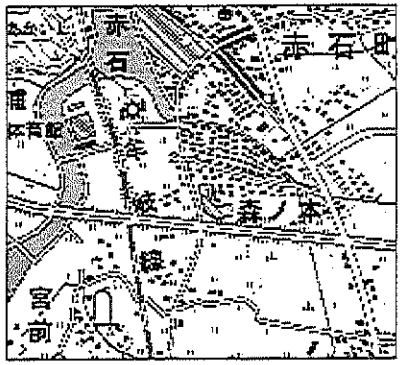
（1946年昭和南海地震）

所在地　小松島市立江町新開18　八幡神社境内
建　立　昭和42年（1967）2月



農地災害復旧碑

小松島市立江町新開の八幡神社境内に、昭和南海地震(1946.12.21)後の農地災害復旧事業を後世に伝える「農地災害復旧碑」があります。「大地震に起因する地盤沈下により立江町の水田40町歩が、悪水の滞留のため不毛の地と化した。災害後、農地改良復旧事業として昭和27年3月に着工、総工費3,300万円の巨費を投じて昭和31年3月に竣工した。」などと刻まれています。

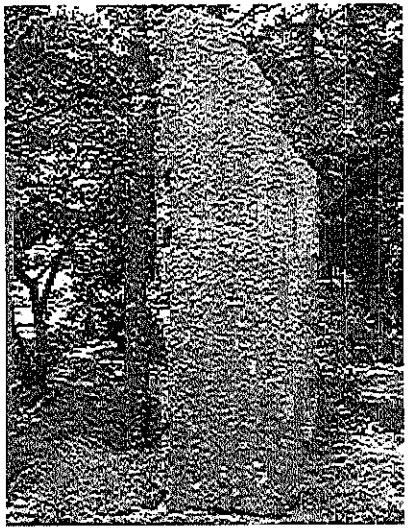


教訓　南海地震の発生により、地盤沈下が起き、冠水した水が長期間滞留、農地などに被害が出ることがあります。排水施設の整備も必要となります。

豊浦神社「石碑」

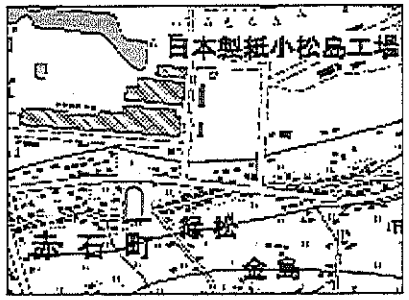
（1854年安政南海地震）

所在地　小松島市赤石町97　豊浦神社境内
建　立　不　詳



石碑

小松島市赤石町にある豊浦神社南入口の鳥居の右に、青石に達筆な文字で刻まれた安政南海地震（1854.12.24）の碑が建っています。「この地震による津波により、徳島県下でも多くの死者を出したが、豊浦近郊の村人は、小高いこの神社の庭に避難し、難を逃れたのは白楽天のおかげ。」と刻まれています。この神社の祭神の白楽天は、地元では、「はくろくさん」と呼ばれています。また、この地震時に白い鹿「白鹿（はくろく）」が現れ住民をこの境内に導き住民を助けたという言い伝えも残っています。



教訓　この神社は今では高所とは言えませんが、津波来襲の恐れが少しでもある時は、一刻も早く近くの高い所へ避難することが大切です。

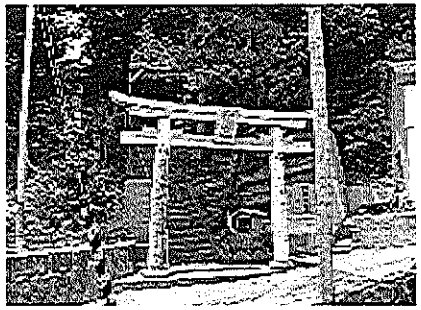
鵠和光神社「石碑」

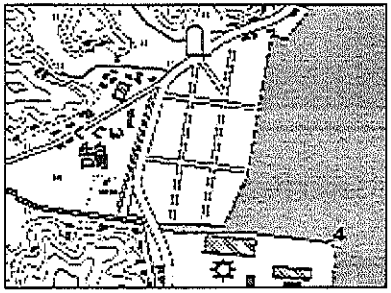
（1946年昭和南海地震、1960年チリ地震津波）

所在地　阿南市橘町青木　和光神社段脇
建　立　平成4年(1992)10月10日

阿南市橘町青木にある和光神社の階段脇に、高さ3m余りの「津波碑」が平成4年に建てられました。この碑には、「鵠地区ではおよそ100年毎に襲われた過去の地震津波の歴史が示され、平常時にそのことを心に留めるよう」戒めています。この碑には1946（昭和21）年の南海地震津波と1960（昭和35）年のチリ地震津波の浸水高が刻まれ、住民が常にその高さを実感できるようになっています。

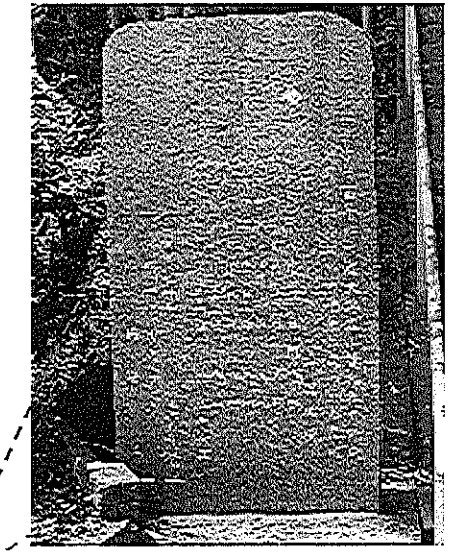
教訓　V字型湾の湾奥部では、津波エネルギーが集中、大津波に襲われる危険性が高く、橘湾奥地区では宝永地震（1707.10.28）時の津波でも大被害を受けています。また、南海地震のような近地津波ばかりでなく、17,000kmも離れたチリ沖で発生した遠地津波でも被害の恐れがあることも知っておく必要があります。


和光神社



1946年　昭和南海地震津波潮位

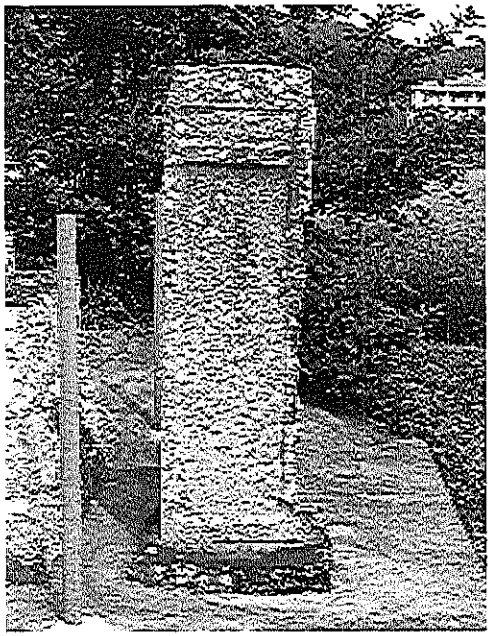
1960年　チリ地震津波潮位

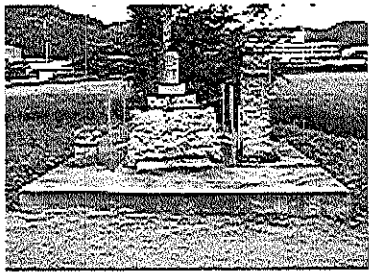

石碑

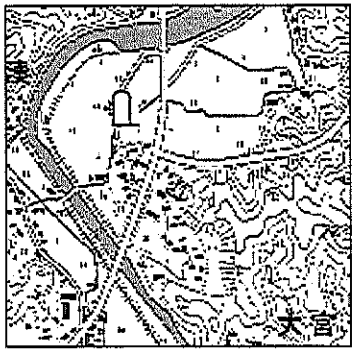
大原「地神上棟式記念碑」

（1946年昭和南海地震）

所在地　阿南市福井町大原116-1　大原集会所西
建　立　昭和23年(1948) 12月21日


地神上棟式記念碑


震災碑



阿南市福井町大原の国道55号線近くの大原集会所西に、昭和南海地震(1946.12.21)からちょうど2周年目に建てられ、当時の被害の様子を記した「地神上棟式記念碑」があります。そこには、「南海地震発生とともに大津波が福井村を襲い、海岸地の一帯が泥海になった。大原平野の田畑は砂礫で覆われてしまった。」などと刻まれています。

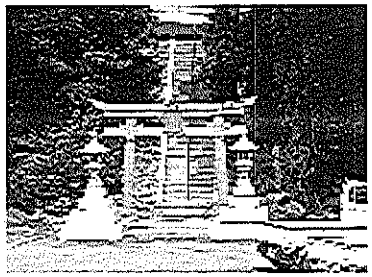
教訓　津波に襲われた田畑は、塩害を受けるばかりでなく、砂礫の堆積により長期間使用不可能となり、農業への被害は甚大です。また、沿岸域の湿地や河川は環境上も貴重で多様な生態系が育まれている場でもあり、環境保全面からも大津波による被害防止対策を急ぐことが必要です。

住吉神社「海嘯潮痕標石」

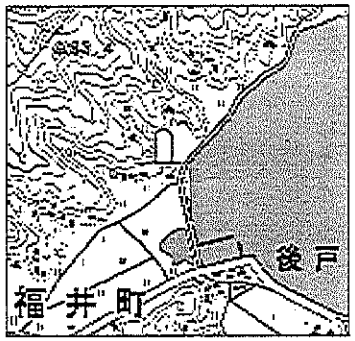
（1946年昭和南海地震）

所在地　阿南市福井町浜田162　住吉神社段脇
建　立　不　詳

海嘯潮痕標石



住吉神社



阿南市福井町浜田（旧後戸）の住吉神社の階段脇に、「海嘯潮痕標石」が建っています。そこには、「昭和21年(1946)12月21日の夜明けに大地震。大音響と共に津波が来襲、最初の波は、住吉神社の石段第6段目まで、一旦退き、間もなく再来、2番目の波は10段目まで。この大津波により、大戸、後戸、赤崎、大原、湊、大西、吉津、大宮、山下、宮宅まで泥海となった。津波は約半時間後に退いた。負傷者3名、家屋13棟、船10艘および家畜を流失、床上浸水197戸、衣食もほとんど流失、大変困った。」などと刻まれています。

教訓　津波は数回、長時間にわたり押し寄せます。必ずしも第１波が最大になるとは限らず、2波目や3波目が大きくなることもあるので注意が必要です。すなわち、高い所へ避難した後は、半日もしくは津波警報が解除されるまで、自宅へ物を取りに帰ったり、海の様子を見に行くなどの行為は禁物です。

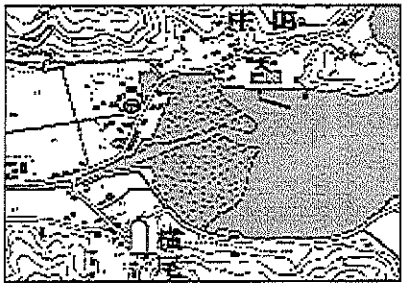
八幡神社「常夜灯台石」

（1854年安政南海地震）

所在地　阿南市椿町浜1　八幡神社鳥居前
建　立　安政3年3月8日(1856.4.12)

常夜灯

阿南市椿町浜（旧横尾）の八幡神社鳥居前にある2基の「常夜灯台石」に、安政南海地震（1854.12.24）時の津波来襲の様子が刻まれています。それによると、「安政南海地震の前日に起きた安政東海地震(1854.12.23)に伴う津波が堤防を越え、川筋の奥深くまで浸入した。翌日、午後4時頃の安政南海地震の大揺れが続くなか、午後6時頃に見上げるばかりの大津波が来襲、多くの家屋や田畑に被害を出したものの、老人・子供を素早く避難させたため幸い死者はなかった。」などと刻まれています。



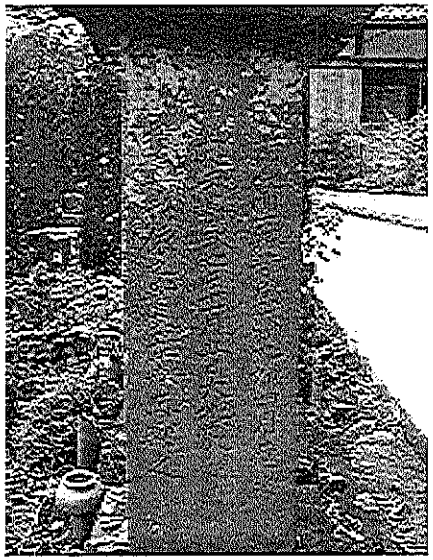
教訓　幼児、高齢者、外国人など援護を要する者には、特に素早い避難補助ができる体制を整えておくこと。もちろん、事前に家族や地域で避難体制を十分整えておくことが大切です。

妙法寺「庚申塔」

（1854年安政南海地震）

所在地　那賀郡那賀町谷内下傍示94　妙法寺境内
建　立　安政5年(1858)

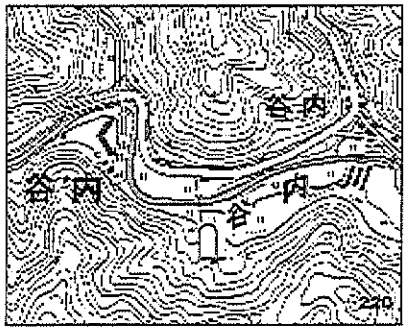
前面



側面

那賀町（旧相生町）谷内の妙法寺は、那賀川中流の支流谷内川の山合にあります。現存する「庚申塔」は安政南海地震(1854.12.24)により損壊したため、1858年に再建されたものです。海岸から20km も離れた山間部で石塔が損壊したということは、この地は震度5以上の揺れに襲われたことを意味します。

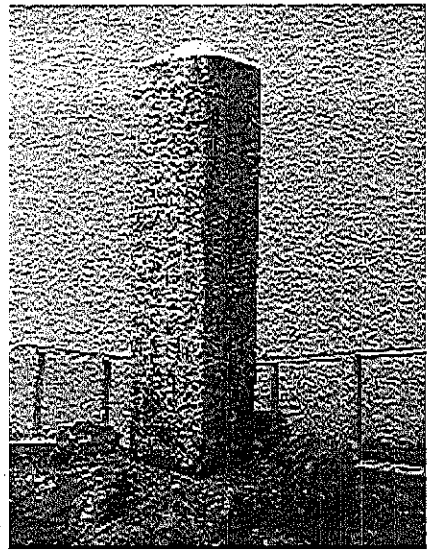
教訓　次の南海地震の揺れの大きさは、この安政南海地震と同じかそれ以上といわれています。沿岸域ばかりでなく、中山間地の住民も、地震対策を怠らないことが大切です。



志和岐「震災碑」

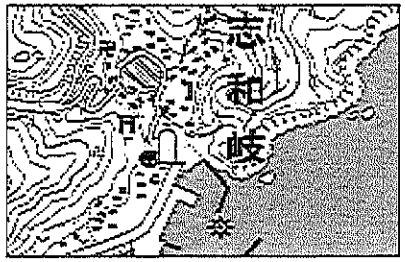
（1854年安政南海地震）

所在地　海部郡美波町志和岐字田井ヶ浦89　志和岐公民館前
建　立　文久2年(1862)9月



震災碑

美波町（旧由岐町）の志和岐公民館の前に、安政南海地震(1854.12.24)の津波による被害を四面に刻んだ碑が建っています。そこには、「嘉永7年11月4日(1854.12.23)午前10時頃安政東海地震があり、大津波が押し寄せ、住人は家財を寺や高台に運んだ。翌5日(1854.12.24)午後4時頃に安政南海地震の後、すぐに津波が押し寄せ、海辺の家は残らず流失したが、犠牲者はなかった。大地震の後には津波が来るので、油断しないようにと子孫に伝えよ。」などと刻まれています。

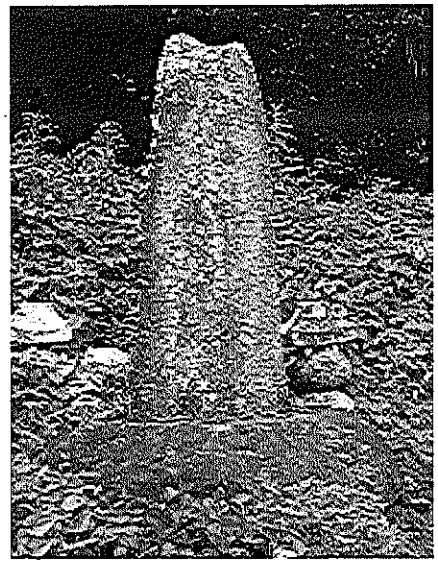


教訓　津波による浸水が予測される地域では、家屋の流失対策も考慮する一方、早急に津波からの避難を図ることを、子孫に伝えなければなりません。

東由岐「康暦碑」

（1361年正平南海地震）　日本最古の津波碑

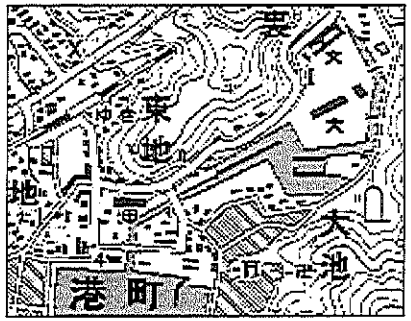
所在地　海部郡美波町東由岐大池イヤ谷
建　立　康暦2年(1380)11月



康暦碑

美波町（旧由岐町）東由岐大池の南岸の小さな谷に、わが国最古の津波碑といわれる正平16年6月24日（1361.8.3）に発生した南海地震津波の供養碑「康暦碑」があります。『太平記』にも「阿波の雪（由岐）の湊を襲った津波」として記されており、この碑は、20年後の康暦2年(1380)に建立されたものです。

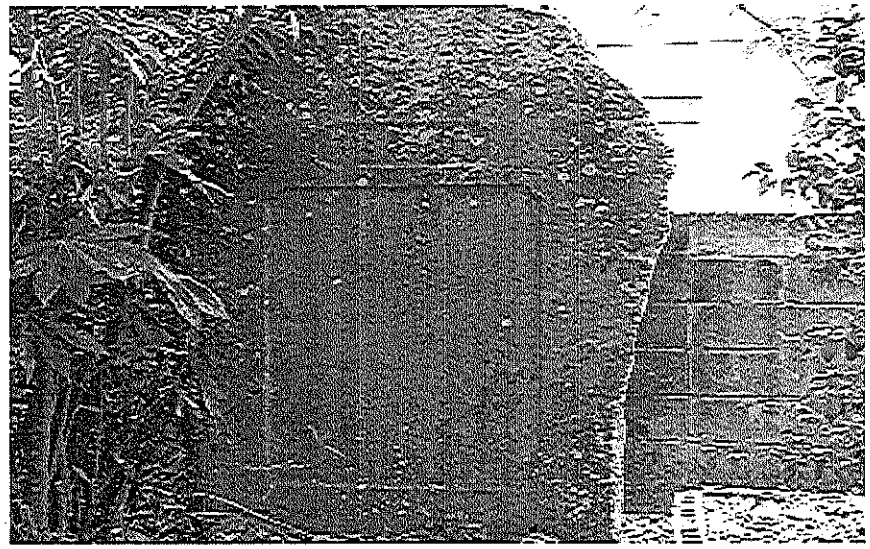
教訓　わが国最古の津波の供養碑が徳島に現存しています。災害文化を継承し、「私たちは、二度と津波災害に遭わないよう心がける」という誓いの碑としなければなりません。



東由岐浦「修堤碑」

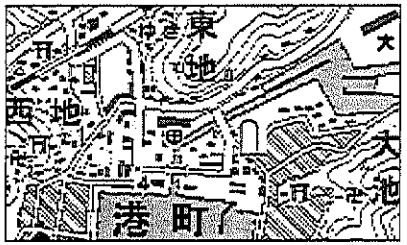
（1854年安政南海地震）

所在地　海部郡美波町東由岐大池101-1　東由岐公民館前
建　立　大正2年(1913) 9月



修堤碑

美波町（旧由岐町）東由岐公民館の前に、大正元(1912)年9月22日の台風で決壊した堤防の修復記念碑にも、安政南海地震（1854.12.24）時の津波の記述が見られます。「安政南海地震時には、長円寺の下まで津波が来襲、堤防は破壊され、村内の家屋が140戸流出、残ったのはわずか10余戸、多数の死傷者が出た。」などと刻まれています。



教訓　現在では高い堤防に守られていますが、大地震時には揺れや液状化、津波などで破堤されることもあります。ハード面の対策だけで安心すべきではなく、避難などのソフト面の対策も合わせて考え、被害軽減に努めなければなりません。

西の地「貞治の碑」

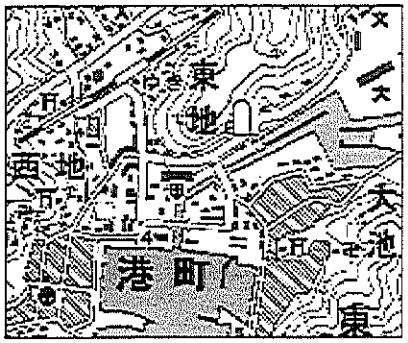
（1361年正平南海地震）

所在地　海部郡美波町西の地字東地　子安地蔵堂内
建　立　貞治6年6月24日（1367.7.29）

貞治の碑

美波町（旧由岐町）西の地字東地の道路の奥に、正平南海地震（1361.8.3）の犠牲者供養のために地蔵尊を刻んだ貞治6年(1367)の銘が入った石（「貞治の碑」と呼ばれる）が、子安地蔵堂内にあります。1854年の安政南海地震の際に、浜の堤防のなかで異様な光を放つこの石を見た地元の信仰厚い人たちがここに移しお祀りしたと伝えられています。

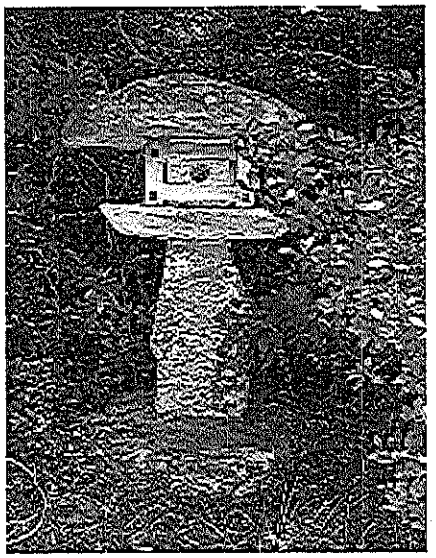
教訓　地震・津波の犠牲者を供養するため、地蔵尊を刻み残した先人の想いを理解し、この地が再び災害に遭わないよう地域住民各自が努力しなくてはなりません。



木岐王子神社「石灯籠」

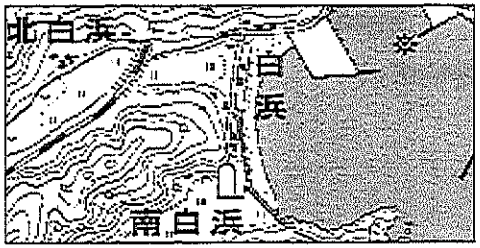
（1854年安政南海地震）

所在地　海部郡美波町木岐南白浜191-2　王子神社
建　立　不　詳



石灯籠

美波町（旧由岐町）木岐地区の南白浜の王子神社横の堤防沿いの木立に埋もれた石灯籠の側面に、安政南海地震（1854.12.24）の様子が刻まれています。それには、「午後4時の大地震のあと、1時間内に大津波が3度押し寄せ、高さ約12mを越える津波で家屋もこの神社も流失した。」などと刻まれています。

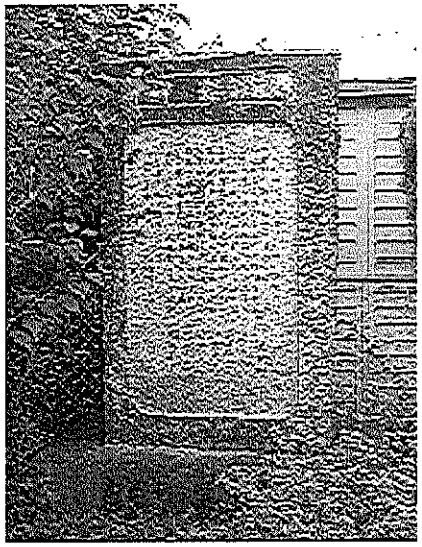


教訓　津波は何度も押し引きを繰り返します。このような巨大津波では、全ての家屋は破壊され、流失します。そのうえ、尊い生命を奪われないためにも、早く近くの高いところへ避難することを心がけなければなりません。

旧旭町南海地震「記念碑」

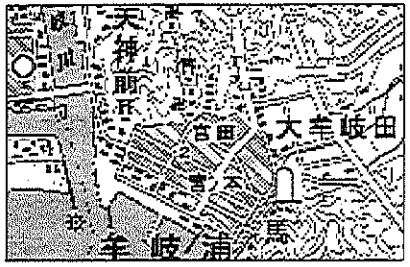
（1946年昭和南海地震）

所在地　海部郡牟岐町灘字大牟岐田　児童公園内
建　立　昭和24年(1949)10月28日



記念碑

牟岐町灘字大牟岐田の児童公園内に、昭和南海地震（1946.12.21）の記念碑があります。当初、牟岐町旧旭町にあったものを、昭和南海地震から50周年記念にあたる平成8年(1996)にこの地に移転しています。碑には、「昭和南海地震後、工費95万円、延べ5,720名、10ケ月をかけて後世の災厄に備えるための地盤埋立事業を行った。旧名坊小路を旭町と改称した。」などと刻まれています。また、「大地震の直後には、津波が襲う」と警鐘を鳴らしています。



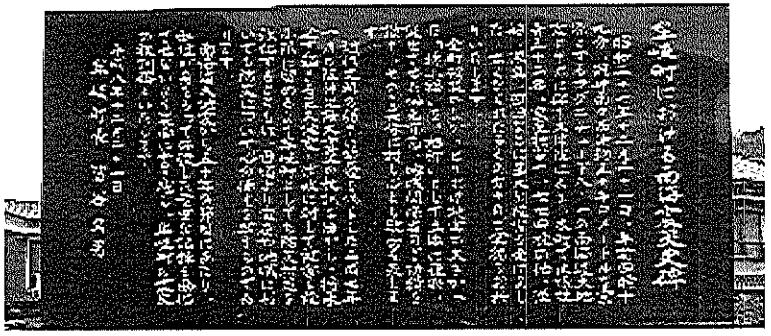
教訓　大地震の後には地盤沈下が起き、そこへ津波が来襲するため、被害はさらに大きくなります。この地域は、津波到達時間が短く、地震の揺れが治まり次第、直ちに避難を開始することが必要です。

「牟岐町における南海震災史碑」

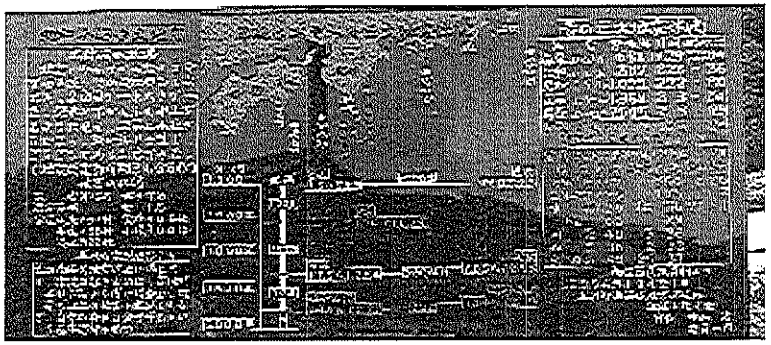
（1946年昭和南海地震）

所在地　海部郡牟岐町灘字大牟岐田　児童公園内
建　立　平成8年(1996)12月21日

地図は前頁参照



前面



背面

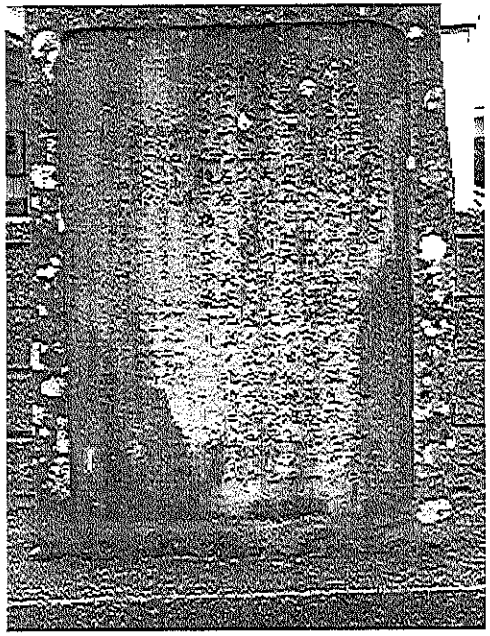
大牟岐田の児童公園内に、昭和南海地震（1946.12.21）から50周年を記念して平成8年(1996)に「牟岐町における南海震災史碑」が建立されています。前面には、昭和南海地震・津波の再調査の結果をもとに「牟岐町では犠牲者52名、家屋被害1,774棟などの被害を受けた。阪神淡路大震災（1995.1.17）の教訓を活かし、将来必ず起きる南海地震に対して日頃から備えよ。」などと刻まれています。背面には、過去に牟岐を襲った巨大地震の震災史が刻まれています。

教訓　図表により、自分のまちを襲った過去の南海地震の被災の実態を住民各自が知りうるよう工夫されています。次の南海地震に備えるための心構えができるよう考慮されたこうした碑は、防災教育・防災学習にも有効です。

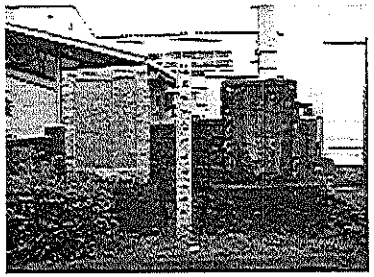
牟岐「大震潮記念碑」

（1854年安政南海地震）

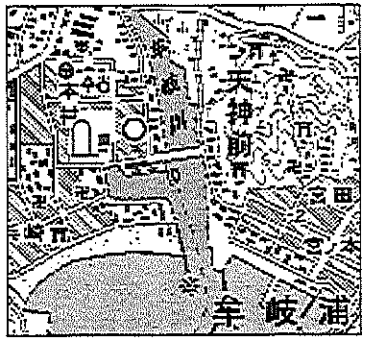
所在地　海部郡牟岐町中村字本村14　牟岐小学校前
建　立　昭和6年(1931) 5月1日



大震潮記念碑



安政・昭和南海地震碑と潮位標識



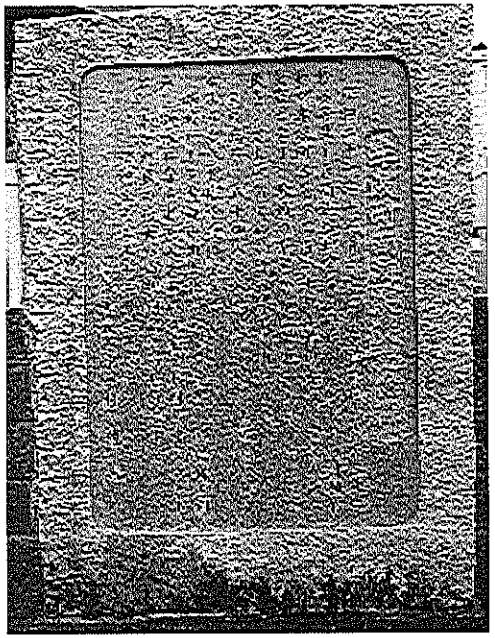
牟岐小学校前に、安政南海地震と昭和南海地震の碑が並んで建っています。2つの碑の間には、昭和南海地震の最高潮位4.52mを示す新しい標識があり、住民に津波への注意を促しています。安政南海地震（1854.12.24）の碑は、度重なる地震の記録を留めようと、昭和6年(1931)に建てられています。「安政東海地震(1854.12.23)が午前8時に発生、午前10時に潮の変動が見られたため人々は恐れて山へ避難し一夜を過ごした。翌5日(1854.12.25)の午後4時に安政南海地震が発生、約10mの津波が3度押し寄せ、家屋640戸が流失、39名が溺死した。天変地異の前兆があれば、油断せずに避難することが大切である。」などと刻まれています。また、幻の津波といわれる永正9年(1512)の津波来襲日や、慶長・宝永・安政各地震の震暦も刻まれています。

教訓　南海地震はおよそ100年周期で繰り返し起きています。安政の津波で牟岐町では39名が溺死しました。天変地異の前兆があれば、油断せずにいつでも避難できる態勢を整えておくことが大切です。

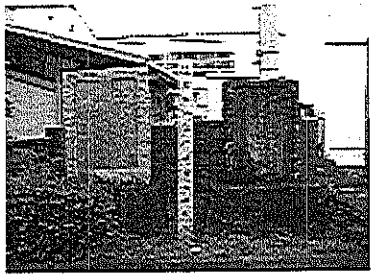
「牟岐町南海震災記念碑」

（1946年昭和南海地震）

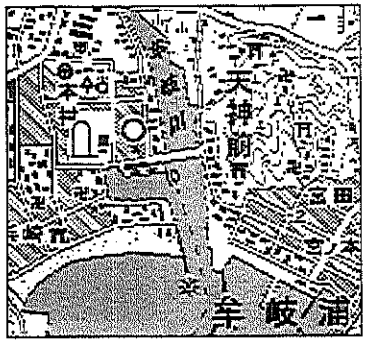
所在地　海部郡牟岐町中村字本村14　牟岐小学校前
建　立　昭和53年(1978)12月21日



牟岐町南海震災記念碑



安政・昭和南海地震碑と潮位石柱



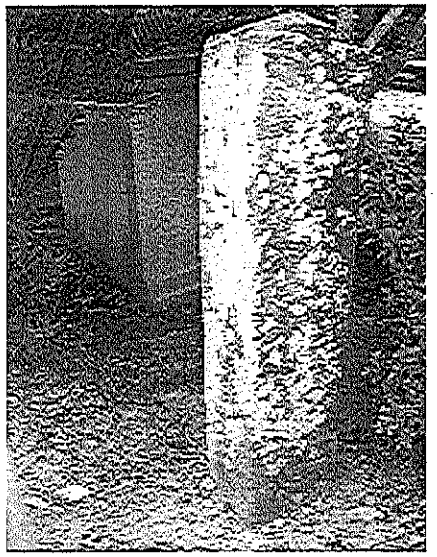
牟岐小学校前の安政南海地震碑の横に、昭和南海地震碑があります。地震から30周年にあたる昭和53年(1978)12月21日に建立されています。この碑には、「昭和21年(1946)12月21日午前4時19分32秒に発生した南海地震とそれに伴う津波は、牟岐町にとって92年前の安政の津波以来の災害となり、敗戦の痛手から立ち直ろうとしていた町民を、さらにうちのめす結果となった。このため54人の人命が奪わるなどの大被害を受けた。瞬時にして荒廃の町と化したその痛ましい記録を刻み、犠牲になられた人たちの御霊を慰め、町民の後世への教訓とする。」などと刻まれています。

教訓　県南部の地域では、地震の揺れによる被害よりも津波による被害が多く、津波が来る前に素早く屋外に脱出し、避難行動をとることが大切です。そのためには、家具の転倒による怪我や下敷きにならない各自の事前対策が必要です。

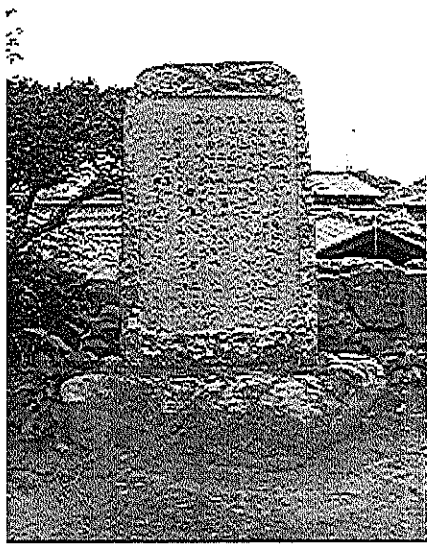
出羽島観栄寺「石碑」

（1854年安政南海地震）

所在地　海部郡牟岐町大字牟岐浦字出羽島　観栄寺境内
建　立　不　詳　　再　建　昭和3年(1928) 12月

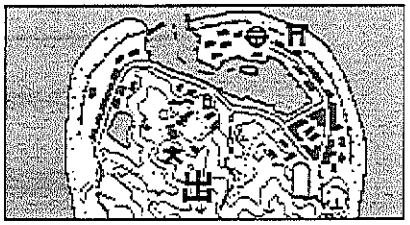


旧碑



再建碑

牟岐沖出羽島の観栄寺階段を上りきった境内左の植え込みの中に旧碑が、本堂正面に向かい合う形で再建碑が建っています。碑には、「安政東海地震（1854.12.23）当日の午前8時にこの島でも6m程度潮が上下し、翌日（1854.12.24）、午後4時の安政南海地震発生時にも同程度の津波が来たが、島民は前日より山の上に避難していて無事であった。」などと刻まれています。

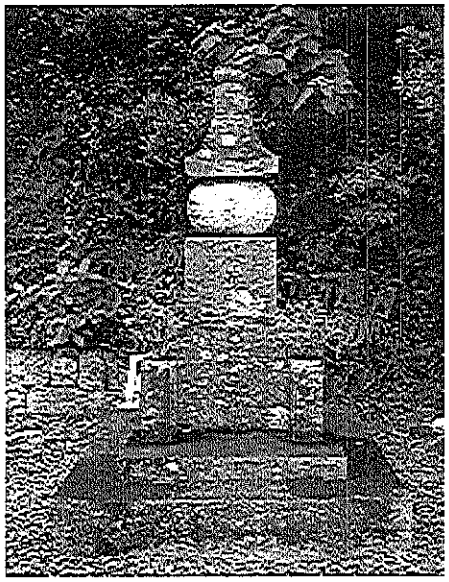


教訓　前日の安政東海地震による潮の変調に気づき山へ避難していたため、翌日の南海地震の津波から助かった例が各地でみられます。津波に対しては、早く近くの高いところへ避難し、半日程度は下山しないことが必要です。

浅川「南海津浪死没者　供養塔」

（1946年昭和南海地震）

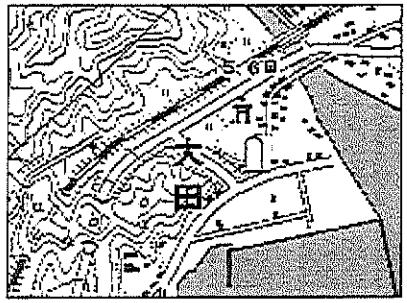
所在地　海部郡海陽町浅川字大田
建　立　昭和42年(1967)12月21日



南海津浪死没者　供養塔

昭和南海地震（1946.12.21）時の津波による犠牲者の名前を刻んだ供養塔が浅川の弥勒菩薩の像のある小高い丘の一画に昭和42年、地元の「みろく会」によって建てられています。

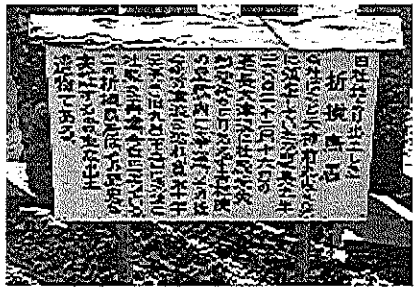
教訓　地震・津波などの自然災害により犠牲者を出した家族にとっては、いつまでも不幸な記憶を忘れることはできません。津波の襲来を受ける宿命の地こそ、過去の災害の記憶を風化させてはなりません。



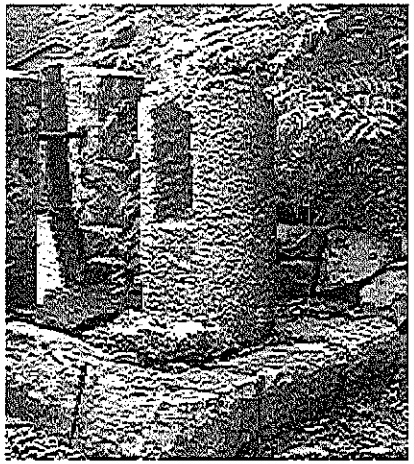
浅川天神社「折損鳥居」

（1605年慶長南海地震）

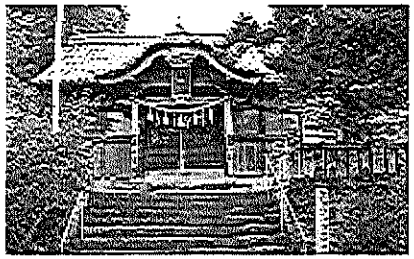
所在地　海部郡海陽町浅川字大田34　天神社境内
移　転　不　祥



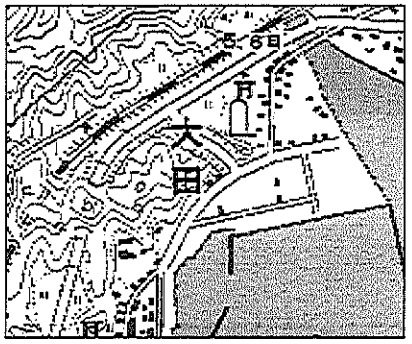
説明板



折損鳥居



天神社



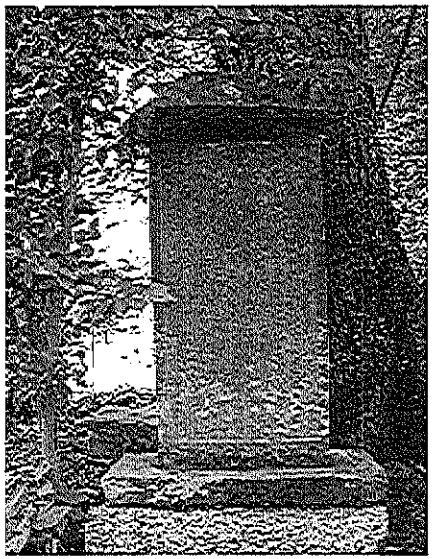
海陽町浅川字大田の天神社の境内に、旧社地より出土した折損鳥居の一部が置かれています。説明板には、「天神社は、もと天神前丸山（古天神）にあったが、慶長南海地震（1605.2.3)時の大津波により流失、御霊代を一時吉祥院の塵敷内に奉遷後、寛永10年(1636)に現地に社殿を再建した。」と書かれています。慶長地震津波の遺物は他にみられない貴重な史料です。

教訓　この地は、慶長時代以降も宝永、安政、昭和の南海地震による津波被害を受けてきました。この遺物を、「今後、これ以上、津波被害を受けさせない地域とする」という「住民の願いのしるし」にすべき宝物です。

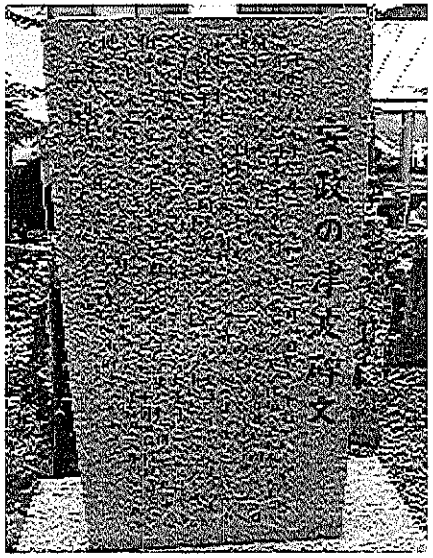
浅川天神社「石碑」

（1854年安政南海地震）

所在地　海部郡海陽町浅川字大田34　天神社境内
建　立　慶応3年(1867)4月　　再　建　平成6年(1994)11月4日

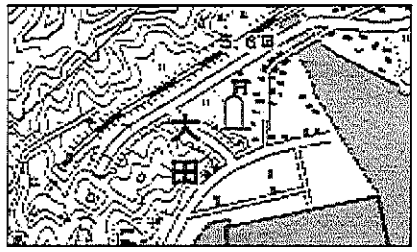


旧碑



再建碑

浅川大田の天神社境内には、碑文が読めなくなった安政南海地震（1854.12.24）の碑と碑文がわかるように再建した2つの碑があります。「安政南海地震の前日（1854.12.23）、安政東海地震が起き、その日の午前10時頃、浅川では海水が道路に溢れ、住民は山へ避難した。翌日（1854.12.24）、午後4時大地震、約9mの津波により、天神、大歳、御崎の3神社、江音、千光、東泉の3寺以外は人家全て流失した。幸い村内には怪我人は出なかった。」などと刻まれています。

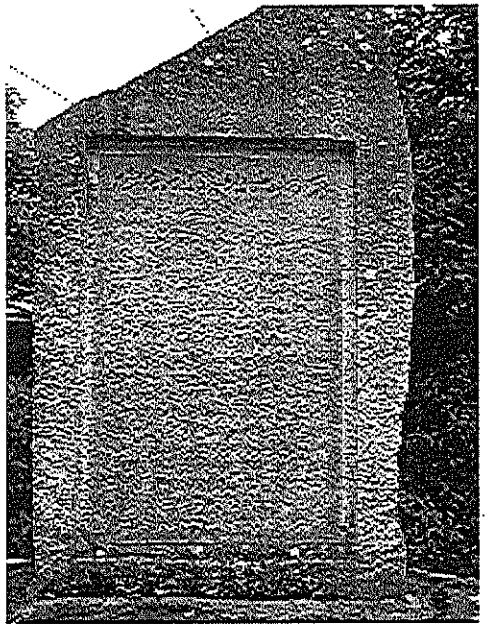


教訓　神社や寺以外は全て流失したものの、山へ避難した人々は津波が収まるまで下山しなかったため、この地では犠牲者が出なかったことを教訓として忘れてはなりません。碑文を蘇らせ、現代に伝承することも大切です。

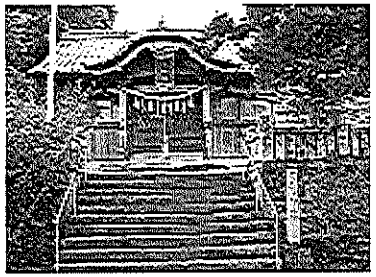
浅川天神社前「南海大地震記念碑」

（1946年昭和南海地震）

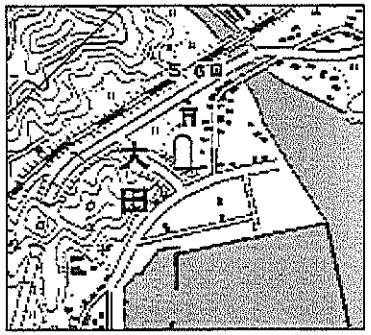
所在地　海陽町浅川字大田34　天神社境前
建　立　昭和31年(1956)12月



南海大地震記念碑



天神社



昭和南海地震（1946.12.21）で徳島県内最大の犠牲者を出した浅川の天神社前の広場に、10周年記念に建立された「南海大地震記念碑」があります。「21日午前4時19分に大地震、震後10分余りで津波が来襲、第1波の高さ約2.7m、第2波約3.6m、第3波約3.3mを記録した。死者85名、傷者80名、流家流失185戸、全壊161戸、半壊169戸に及んだ。その他、船舶漁具家財および農作物も多数流失した。終戦後の物資不足の時世に多方面から援助を受けたことへに感謝する。」などと刻まれています。

教訓　天神社には、慶長、宝永、安政、昭和の地震に関する記念碑があります。これほど多くの碑が残されている浅川の人達は、次の南海地震時には犠牲者をなくすこと、それが先人に対する義務と考えなければなりません。

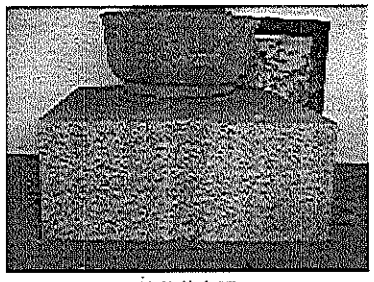
浅川観音堂「地蔵尊台石」

（1707年宝永地震）

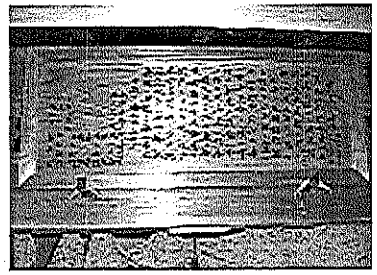
所在地　海部郡海陽町浅川字イナ　観音堂境内地蔵堂
建　立　正徳2 年(1712) 7月

地図は次頁参照

地蔵尊



地蔵尊台石



地蔵尊扁額

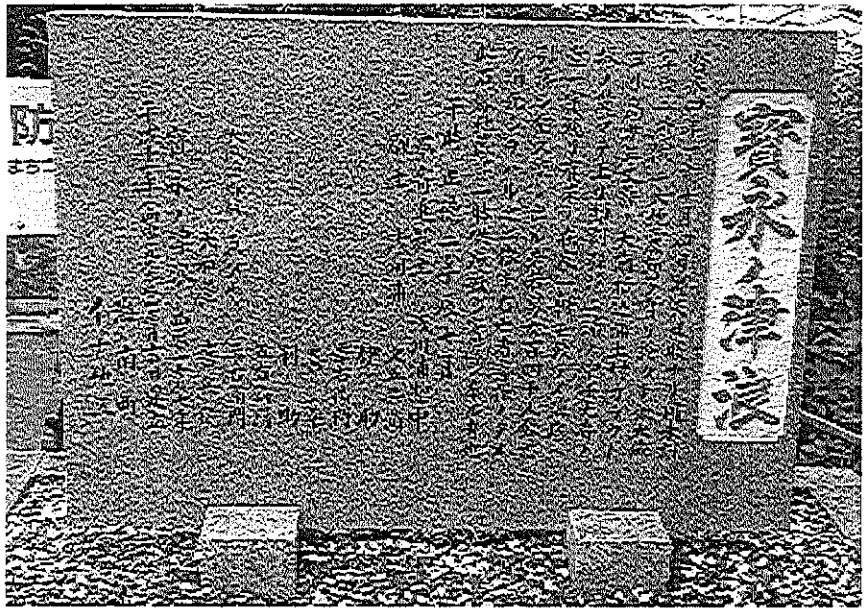
海陽町浅川字イナの浅川湾を見下ろす小高い丘の観音堂地蔵尊台石に、わが国最大級の東海・東南海・南海地震が同時に起きた宝永地震（1707.10.28）時の津波の様相が刻まれています。それには、「午後2時頃、大地震、その後9mの津波がカラウト坂の麓まで上がり、引き潮により千光寺以外はすべて流失、140余人の犠牲者を出した。」などと刻まれています。今では台石の文字は上半分しか見えず、その銘文を扁額に書き示しています。

教訓　この浅川には、慶長津波の天神社鳥居の遺物、宝永津波のこの供養地蔵尊があり、その後の1854年安政南海、1946年昭和南海地震津波でも大きな被害を受け多くの碑が建てられています。この丘に立てば、浅川湾の湾口に津波防波堤が見えます。しかし、津波防波堤だけに頼らず、地震時には家具の倒壊を防ぎ、屋外への脱出など避難態勢を整えておくことが大切です。

浅川観音堂「宝永ノ津浪」

（1707年宝永地震）

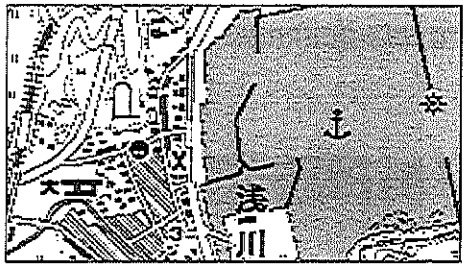
所在地　海部郡海陽町浅川字イナ　観音堂境内
建　立　平成11年(1999)3月



宝永ノ津浪

浅川イナの観音堂内にある地蔵尊台石の碑文を、より多くの人に知らせるために、平成11年(1993)3月、境内に新しい石碑が建てられました。

教訓　住民各自が津波災害対策を考えるためにも、過去の生の資料を掲示することは、防災意識の向上に役立ちます。

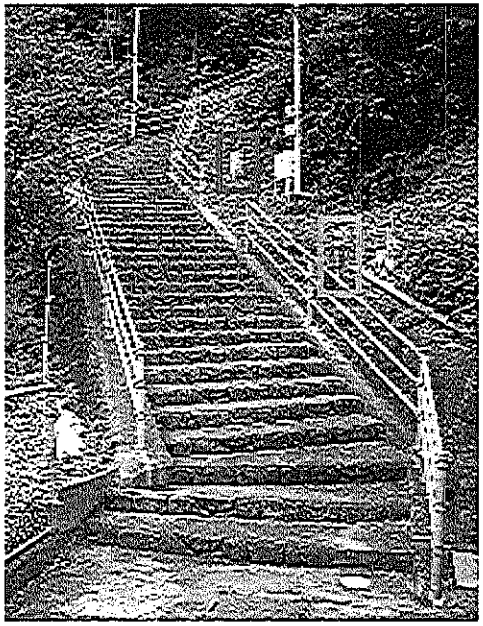


浅川観音堂石段「津波襲来地点石標」

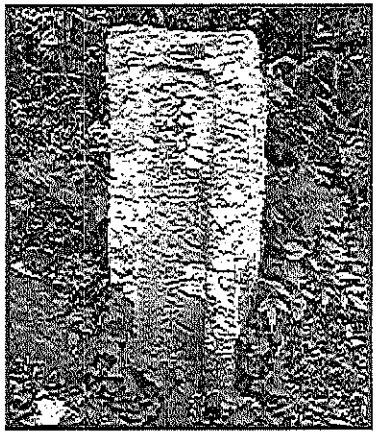
（1854年安政南海地震、1946年昭和南海地震）

所在地　海部郡海陽町浅川字イナ　観音堂石段
建　立　不　詳

地図は前頁参照



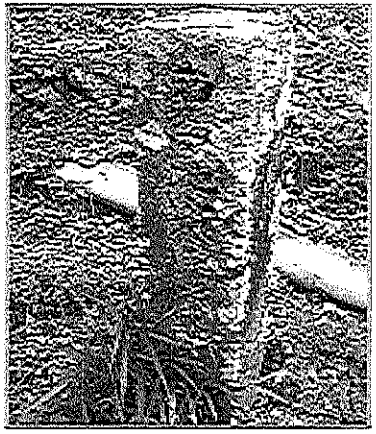
浅川観音堂石段



安政南海地震津波襲来地点石標

浅川の観音堂に至る石段脇に、安政南海地震（1854.12.24）時および昭和南海地震（1946.12.21）時それぞれの津波の到達点を示す石標が建てられています。それぞれの石標から、安政の津波は6.4m、昭和の津波は4.1mの高さにもなっています。自分の目線をその位置に合わせ、石段反対側の家の高さと比べて下さい。津波の恐ろしさが実感できるはずです。昭和の津波は、安政の津波よりもはるかに小さかったことも一目瞭然です。

教訓　津波高を示す石標は、地域の防災意識を高める無言の教科書になります。



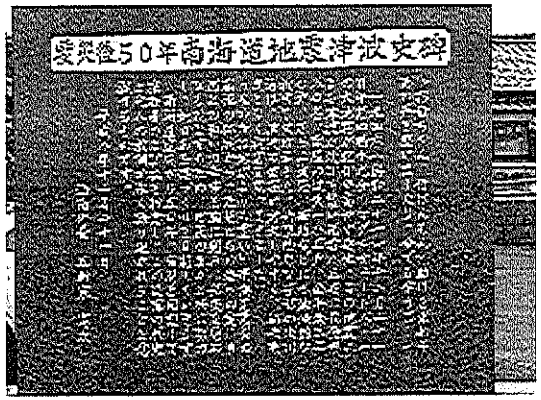
昭和南海地震津波襲来地点石標

「震災後50年南海道地震津波史碑」

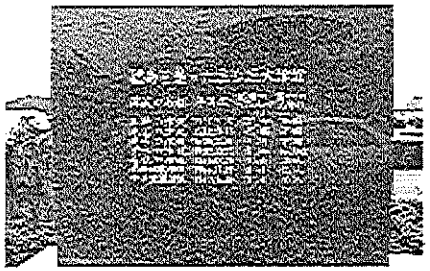
（1946年昭和南海地震）

所在地　海部郡海陽町浅川字川ヨリ東26-4　海南庁舎浅川出張所前広場
建　立　平成8年(1996)12月21日

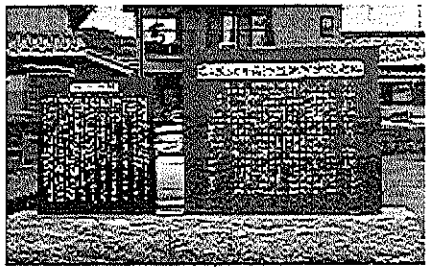
地図は次頁参照



震災後50年南海道地震津波史碑



背面



並列する昭和南海地震津波に関する碑

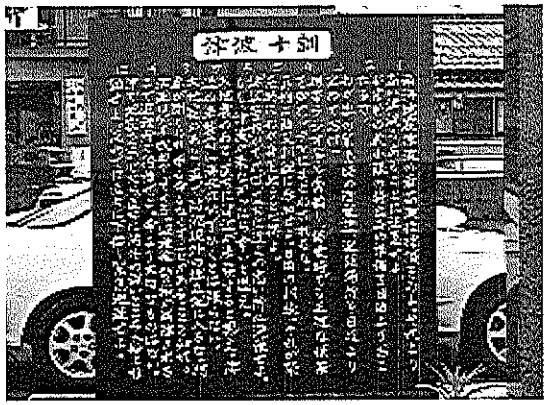
海陽町海南庁舎浅川出張所前広場に、昭和南海地震(1946.12.21)の新しい記念碑が2基並んで建っています。「震災後50年南海道地震津波史碑」は、当時を回想して85名の犠牲者の冥福を祈念し、碑の背面に繰り返された津波の歴史と先人の教訓が永く語り継がれることを願って、平成8年(1996)12月21日に建てられたものです。

教訓　この碑に刻まれた「被災の歴史を風化させてはならない」、その歴史を通じて「一人一人の命は地球よりも重い」ことを肝に銘じ、日頃から住民各自が高い防災意識を持つべきことをこの碑は教えています。

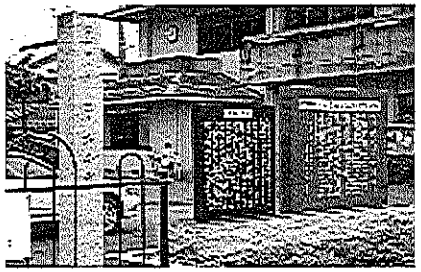
「津波十訓」

（1946年昭和南海地震）

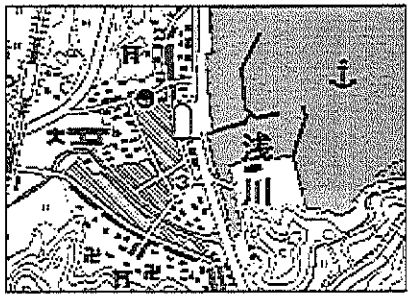
所在地　海部郡海陽町浅川字川ヨリ東26-4　海南庁舎浅川出張所前広場
建　立　平成8年(1996)12月21日



津波十訓



昭和南海地震津波の最高潮位標識



「震災後50年南海道地震津波史碑」の横に、津波に対する心構え「津波十訓」が刻まれています。それには「地区内に建てられた多くの昭和南海地震津波の最高潮位標識よりも高い津波もある、最小限の持ち出し品の準備、避難路・避難場所を決めておく、津波の前に潮が引くとは限らない、避難は早く近くの高いところへ、船の移動方法」などに関する教訓が述べられています。

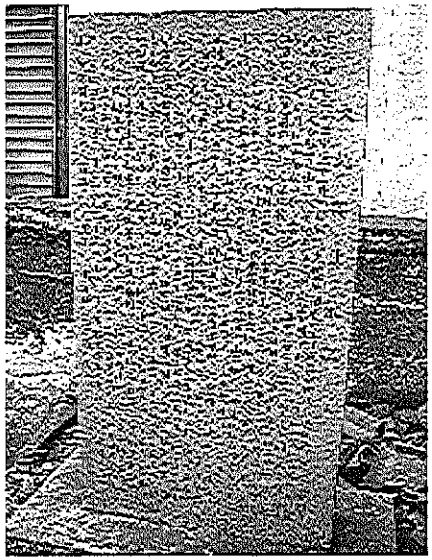
教訓　十訓に学び、住民一人ひとりが自分の地域の弱点をよく知り、その地域に応じた津波への対応をとることが大切です。

浅川御崎神社「大地震津浪記」

（1707年宝永地震、1854年安政南海地震）

所在地　海部郡海陽町浅川字川ヨリ西　御崎神社境内
建　立　明治34年(1901)11月　　再　建　平成8年(1996)

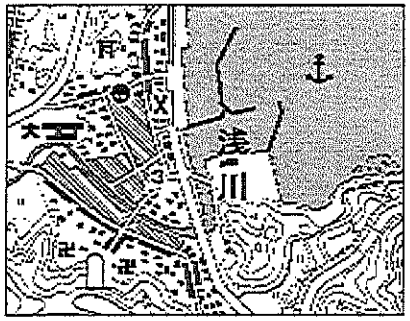
旧碑



再建碑

浅川の御崎神社境内には、千光寺の「大地震津浪記」扁額に記された文章に、宝永地震（1707.10.28）時の死者数185人などを付け加えた石碑が、明治34年(1901)に建てられています。風化が激しく碑文が読み取れないため、平成8年(1996)に復元した再建碑が境内の別の位置に建てられました。

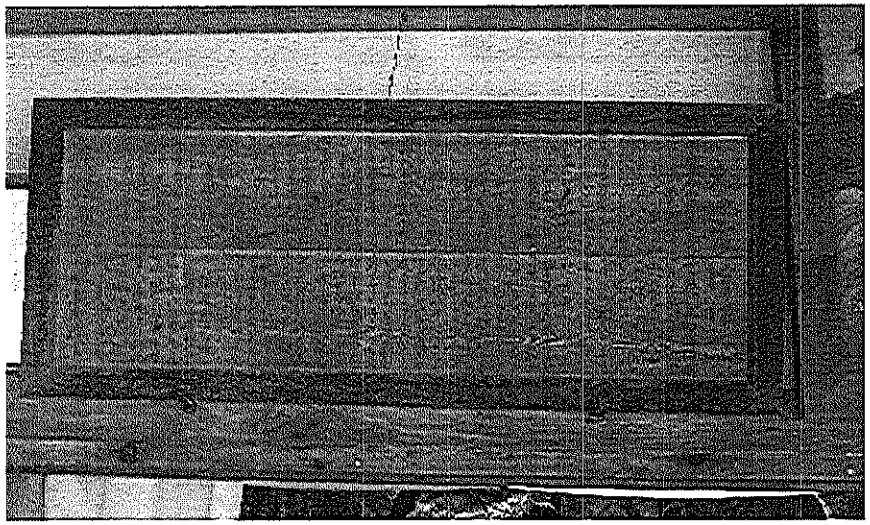
教訓　石碑に刻まれた文字は風化しても、そこに記された教訓は風化させてはなりません。新しく誰もがわかる形で蘇らせた再建碑から地域の災害史を学ぶことが大切です。



浅川千光寺「大地震津浪記」扁額

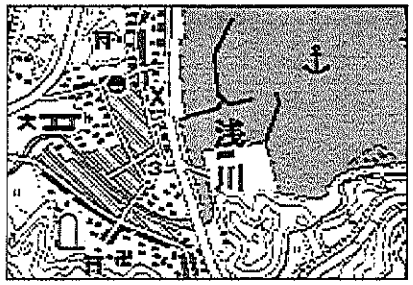
（1854年安政南海地震）

所在地　海部郡海陽町浅川字川ヨリ西166-3　千光寺本堂内
奉　納　文久元年(1861) 6月



大地震津浪記

浅川の千光寺本堂内に、安政南海地震（1854.12.24）の6年後に奉納された浅川の当時の様子記した「扁額」があります。そこには、「安政南海地震の前日に起きた安政東海地震津波の浅川への影響や住民の行動、当日の津波で浅川では、一部の神社や寺院を除く集落全域が流失した。津波は6～9mにも這い上がり、観音堂石段25段、高台の3ケ寺（江音寺、千光寺、東泉寺）でも座上1.2mも浸水した。また、大阪などでは、船に乗って逃げたために多くの死者が出た。」などと記されています。

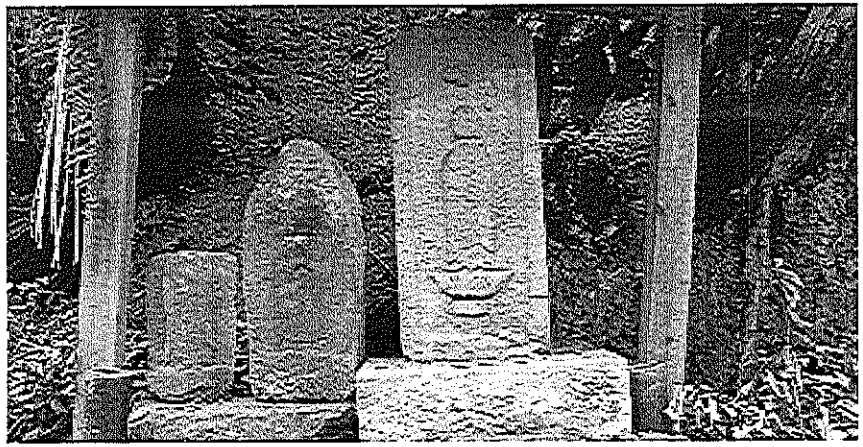


教訓　「約100年後にはまた大地震が起きる、そのため仮住居の用意をする、津波に対し船で逃げてはならない」など多くの教訓が記されています。

旧熟田峠地蔵尊「供養塔」

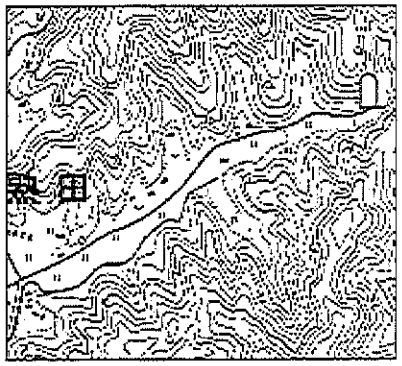
（1854年安政南海地震）

所在地　海部郡海陽町熟田　熟田峠旧山道
建　立　不 詳



供養塔

山を切り裂いた熟田の新道に沿って、草深い旧道に分け入った道端に、高さ50cm程の地蔵尊を刻した石塔があります。もともと、安政南海地震津波（1854.12.24）による大里村の被災状況を後世に伝えるため、人の目に触れやすい峠に供養塔を建てられていました。この側面には、「宝永地震（1707.10.28）より安政南海地震まで148年目。安政南海地震の前日の安政東海地震が起きた午前8時頃、潮が町中に溢れ込み、当日の午後4時に大地震とともに、約9mの津波が押し入った。住民は山へ逃げ登り、海辺の人家は流失、一面は荒野となった。」などと刻まれています。先人の意思を生かすためにも、石塔を人の目に触れる新道路脇などに移し、碑文を示すなどの措置も考えられます。

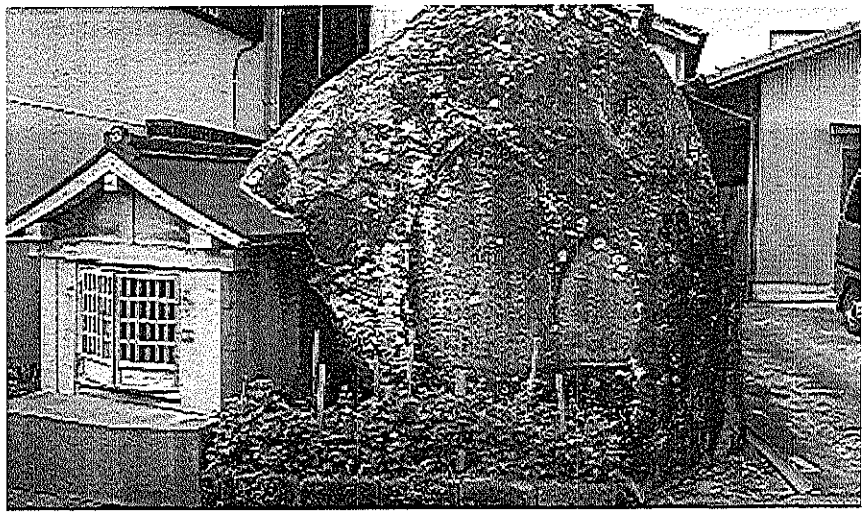


教訓　新道の開通により、誰も目につかない旧道に地蔵尊は埋もれています。犠牲者の供養と先人の意志を生かすことを考えなければなりません。

大岩「慶長・宝永地震津波碑」

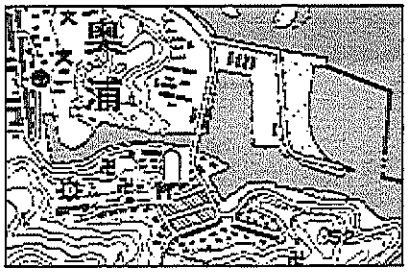
（1605年慶長地震、1707年宝永地震）

所在地　海部郡海陽町鞆浦字北町
建　立　慶長碑：寛文4年(1664)　宝永碑：不 詳



慶長碑(左)および宝永碑(右)大岩の碑

海陽町鞆浦漁港近くの大岩に、慶長南海地震（1605.2.3）（向って左）と宝永地震（1707.10.28）（同右）の碑文が刻まれています。慶長の碑面には、「南無阿弥陀仏と中央上面に文字が刻まれ、その下に、午後10時に30mの津波が来襲、100余名の犠牲者が出た。」などと刻まれています。一方、宝永の碑面には、「午後2時頃、約3mの津波が3度来襲したが、犠牲者はなかった。」などと刻まれています。この慶長の津波碑は、四国で地震・津波の様子が記された最古の碑です。

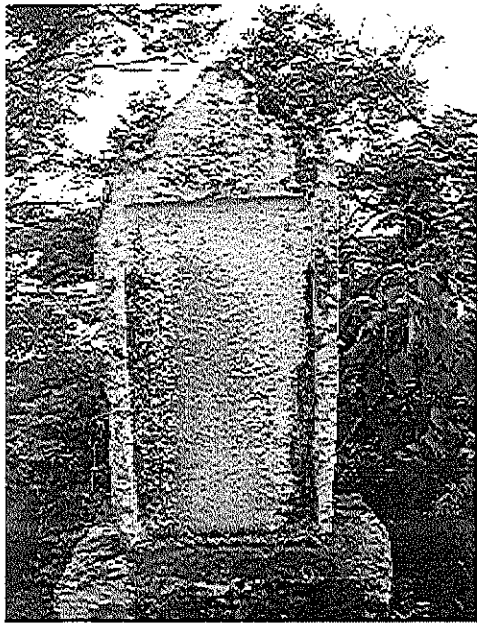


教訓　地震・津波の様子が記された最古の碑が鞆浦の集落にあることは、この地域の文化の高さを示すもので、先人の誇りを受け継ぎ、徳島県南地域が、日本一津波被害がない地域となるよう努力すべきです。

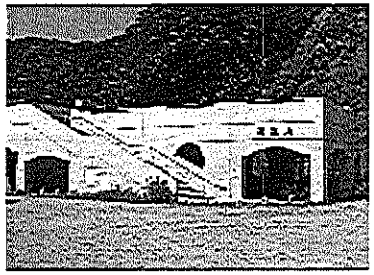
鞆浦「海嘯記」

（1854年安政南海地震）

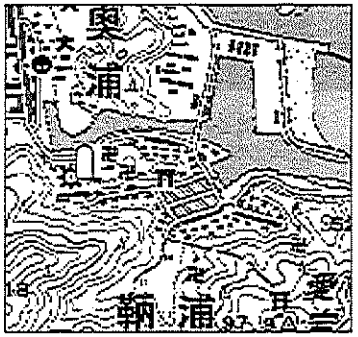
所在地　海部郡海陽町鞆浦字立岩　海部川旧河道沿い
建　立　昭和2年(1927)5月1日



海嘯記



津波避難施設（鞆浦山下地区）



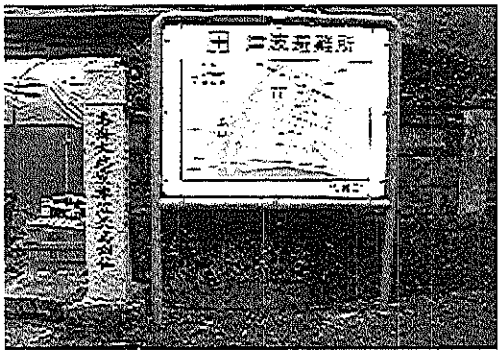
鞆浦漁港から海部川の旧河道沿いに、安政南海地震（1854.12.24）時の津波の様相を記した「海嘯記」が建っています。この碑には、「午後4時頃に起きた地震による津波は、多善寺の門前、鵜宮まできた。人々はあわてふためき近くの山々へ逃げた。津波は夜半までに4～5回あり、余震は夜明けまでに30～40回も続いた。津波の高さは、他の地域では6～9mにもなったが、鞆浦では3～6mであった。建物被害も少なく、けが人もなかった。」などと刻まれています。

教訓　この狭い鞆浦の集落には、慶長、宝永、安政の津波碑が存在します。過去の津波の実態を知り、現在までの地形や土地利用変化も考えながら、被害を最小化する知恵が必要です。避難場所の少ない山下地区には、現在立派な避難所が造られています。

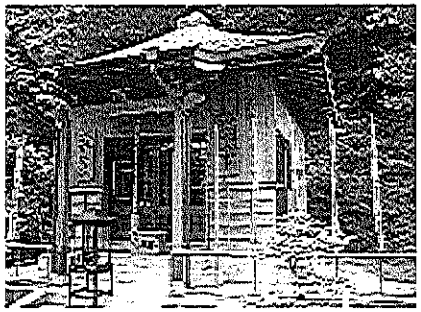
宍喰「南海地震津波最高潮位標識」

（1946年昭和南海地震）

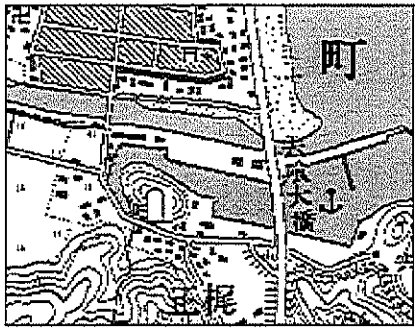
所在地　海部郡海陽町宍喰浦　弁天山登り口
建　立　平成8年(1996)9月



南海大地震津波最高潮位標識



古目大師堂

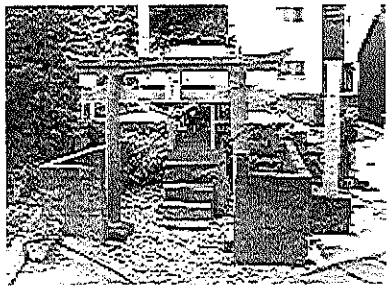


海陽町宍喰は、古文書によれば永正の津波（1512.9.13）、慶長、宝永、安政、昭和の津波で大被害を受けてきたことがわかっています。しかし、石碑や扁額といった形では残されていません。宍喰浦弁天山登り口（古目大師堂の対面）に、昭和南海地震(1946.12.21)の津波最高潮位を示す標識が避難所の看板と並んで建てられています。

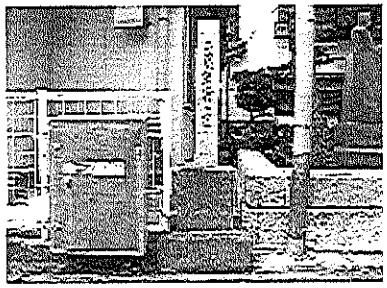
教訓　宍喰における安政南海地震津波の高さなどは、この地の旧家の古文書に残され、昭和南海地震津波よりもさらに大きかったことがわかっています。それらを次の南海地震津波の防災対策に生かすことが望まれます。

南海地震津波「最高潮位標識」

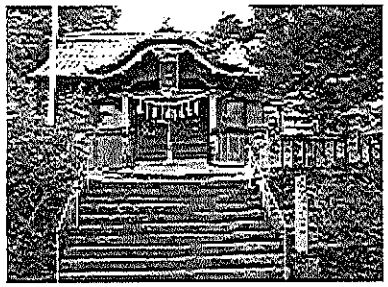
（1946年昭和南海地震）



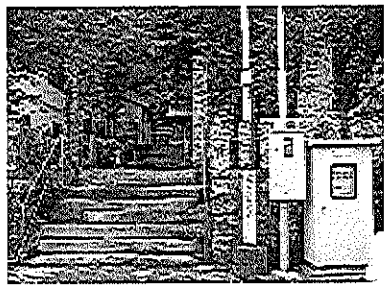
美波町　西由岐　公民館前



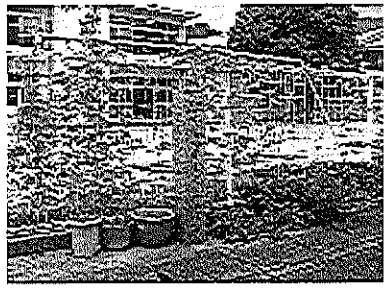
美波町　西の地　由岐保育所前



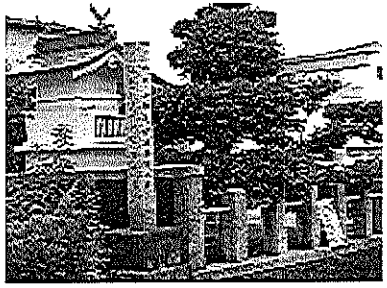
海陽町　浅川　天神社前



海陽町　浅川　御崎神社前



牟岐町　灘　大牟岐田



牟岐町　蛭子神社横

徳島県南部の地域では、昭和南海地震(1946.12.21)による津波の最高潮位を示す標識（石柱、電柱、壁面の印）が各所で見受けられます。こうした津波高を示す標識は、それを日頃眺めるだけで津波の脅威を無意識に感じ、「防災意識を高める無言の教科書」といえます。

（２）地震・津波碑を活用した防災教育の実践例

これらの碑には，今後の地震・津波防災に生かすべき有用な多くの教訓が刻まれています。資料「南海地震を知る　徳島県の地震・津波碑」は，２００８年に徳島大学環境防災研究センターが監修し，徳島県が作成したものです。オリエンテーリングや遠足等で現地を尋ね，碑の教訓を生かし，南海地震等に立ち向かう心構えの一助とするなど，防災教育に活用することができます。

また，現地での学習が困難な場合には，本資料を参考にして防災教育に取り組んでください。

例7　防災探検オリエンテーリング（金）

活動概要　生活圏の避難場所や防災役立つ場所をチェックポイントにしたオリエンテーリングを行い、発災時に身を守る場所を確認する。

準備物　地図、ゼッケン、筆記用具等

所要時間　２～３時間程度（実施地域の広さや避難所の数によって異なる）

活動手順

事前準備	・日頃の活動場所ごとに避難場所を確認しておく必要性を理解させる。
↓	
オリエンテーリングの実施	・ポイント（避難場所）では、休憩を兼ねて「防災クイズ」を行う。
↓	
パンフレットの作成	・気づいたことを発表し合い、地図に書き込んでパンフレットにして配布。
↓	
振り返り	・生活圏の避難場所が確認できたか。

※保護者や被災体験者と一緒に行ったり、ポイントで防災の話を伺うとより効果的。

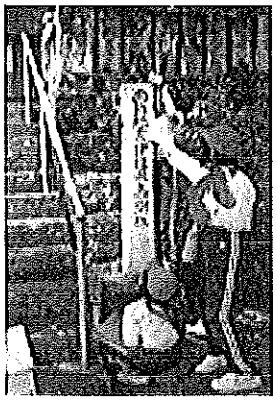
オリエンテーリングのポイントとなる場所

1. 地域の災害に関する史跡

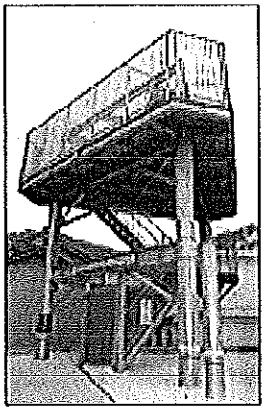
2. 避難施設

3. 防災に役立つ施設
   ①官公庁（消防署・警察署・病院・保健所など）
   ②地域の公共施設（公民館・集会所・学校・公園など）
   ③電話ボックス・公衆電話
   ④防災倉庫
   ⑤消火栓・防火水槽
   ⑥災害対応型自動販売機
   ⑦コンビニ、ホームセンター　など

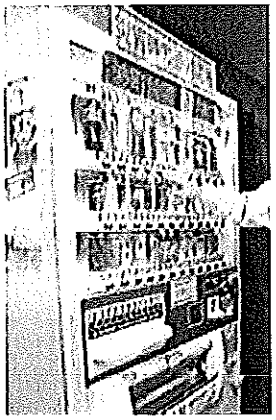
4. 災害時に危険な場所
   ①海岸・川・池などの水辺
   ②がけや急斜面
   ③ブロック塀や自動販売機
   ④狭い道路
   ⑤歩道橋
   ⑥看板　など



記念碑



津波避難タワー



災害時対応自動販売機

徳島県教育委員会「地域とつなぐ防災教育」（平成２３年３月）より

9 「釜石の奇跡」に学ぶ

東日本大震災で多くの命が失われた中，群馬大学片田教授により，釜石市の子どもたちに津波から生き延びるための防災教育が行われてきました。結果，釜石市の学校管理下にあったすべての子どもたちが自ら命を守ったことが「釜石の奇跡」と呼ばれています。

片田教授の唱える「避難３原則」が今後の防災教育には大切だといわれています。

避難３原則

・想定にとらわれるな
・最善を尽くせ
・率先避難者たれ

それでは，この３原則がどのように生かされたのでしょうか。釜石市の生徒たちのとった行動を参考に考えてみましょう。

【津波からの避難の詳細】

平成23年３月11日14時46分，大きな揺れが両校を襲った。地震発生時，釜石東中学校ではすでに授業終了時刻であったため，校庭で部活動を行う生徒，校内で課外活動を行う生徒など，学内の様々な場所に点在していた。一方，鵜住居小学校では放課直前であり，多くの児童は校舎内に滞在していた。

釜石東中学校では，大きな揺れの最中，副校長が校内放送を使って全校生徒に避難の指示を出すことを試みた。しかし，地震発生直後，停電になってしまい，ハンドマイクで生徒に校庭への避難の呼びかけを試みるようとした。しかし，多くの生徒は地震の揺れの大きさから“ただ事”ではないことを察知し，各々で揺れから身を守るための最善の対応を行い，揺れがおさまった後に，自らの判断で校庭に集合し始めたのである。そして，ある教師が生徒に向かって，「逃げろ」と叫ぶと，運動部員を先頭に全生徒は予め決めておいた避難場所（ございしょの里）まで走り始めた。

一方の鵜住居小学校では，津波の襲来に備えて，全校児童を校舎の３階に移動させていた。しかし，中学生が避難していく様子を見て，すぐに校外への避難を決断する。釜石東中学校の生徒たちは，鵜住居小学校の児童にとって率先避難者となったのである。児童たちは中学生のあとを追って，ございしょの里まで走り始めた。

ございしょの里まで走りきった小中学生はその場で点呼を取り，避難は無事に完了したかに見えた。しかし，ございしょの里の職員や生徒数名が，建物の裏山の崖が崩れていることを発見する。「ここも危険だから，もっと高いところに避難しよう」と生徒は先生に進言する。釜石東中学校の教師は，すぐにさらに高台にある介護福祉施設への避難が可能であるかどうかの確認に走る。避難可能の確認がとれ，小中学生はさらに高台までもう一度走り出す。

このとき，すでに地震発生からかなりの時間が経過していた。一刻の猶予もない。中学生は訓練したとおりに，小学生の手を引き，避難を支援する。避難の道中，園児を抱えながら，たくさんの園児を乗せた散歩用の台車を押し，必死に避難する鵜住居保育園の保育士を生徒たちは確認する。ここでも生徒たちは教えられた通り，『助ける人』としての役割を果たすこととなる。保育士と一緒に園児を抱え，台車を押し，必死に避難する。

先頭を行く中学生が介護福祉施設に到着し，点呼を取り始めたとき，消防団員や周辺にいた地域住民の「津波が堤防を越えた！」という叫び声が聞こえた。「逃げろ！」襲い来る津波の恐怖に，子どもたちは福祉施設よりもさらに高台にある国道４５号線沿いの石材店まで駆け上がる。中には敷地内の裏山まで駆け上がる生徒もいた。避難の列の最後尾の児童は，介護福祉施設にたどり着く

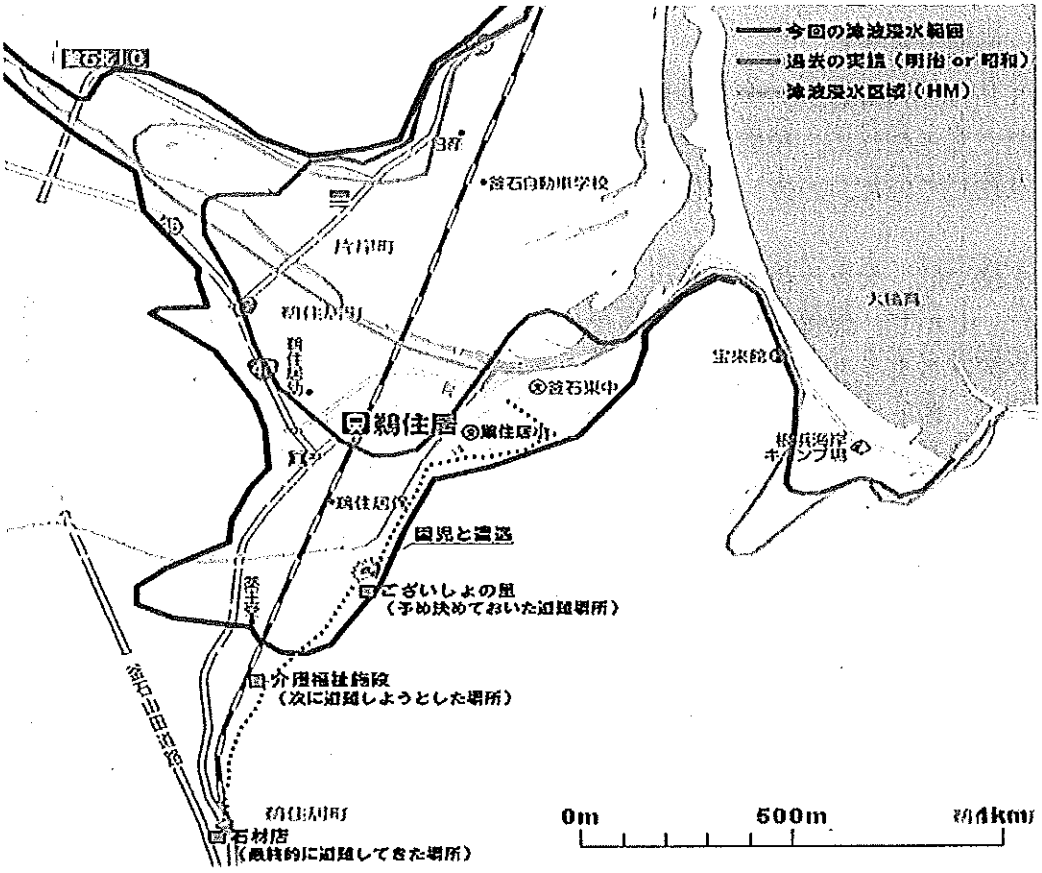
まえに津波に追いつかれてしまう。とっさの判断で山を駆け上がり，間一髪のところで無事にみんなのところに合流することができた。

こうして，津波襲来時に学校管理下にあった鵜住居小学校，釜石東中学校の児童・生徒約５７０名は無事に津波から生き残ったのである。

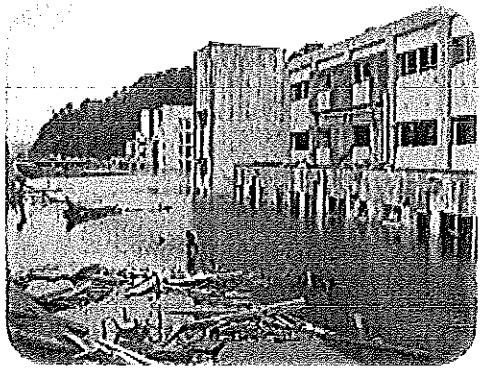
【想定にとらわれるな】

図１の赤い線が過去の浸水地域で，オレンジ色の線がハザードマップに記された浸水　地域です。釜石東中学校も鵜住居小学校もマップ上では，浸水域からは外れています。　また，鵜住居小学校は耐震補強工事がが終わったばかりでした。もし，児童生徒がこの　マップを鵜呑みにし，校舎が安全だからといって，学校で避難を続けていればどうなっ　たでしょう。結果は，次のマップや写真を見れば容易に想像できると思います。

想定にとらわれず避難行動をとった小中学生により「釜石の奇跡」は起こされました。



○大槌湾（鵜住居・片岸周辺）の津波浸水範囲



○津波によって浸水した鵜住居小学校（手前）と釜石東中学校（奥）

○校舎の３階に軽自動車が突き刺さった鵜住居小学校

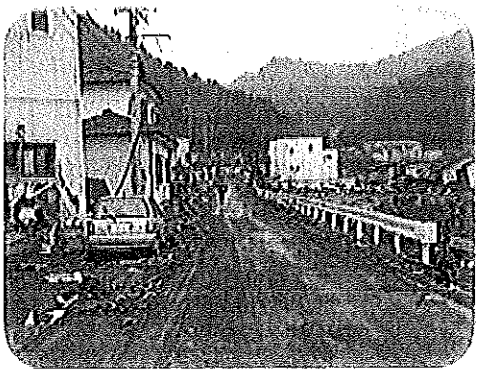
【最善を尽くせ】

最善を尽くすということは，避難するときは「ここまで来ればもう大丈夫だろう」ではなく，そのときにできる最善の対応行動をとることです。

子どもたちは，予め避難場所と決めておいた「ございしょの里」まで一気に駆け上がりました。そこで，近くの崖が崩れているのを発見し，危険と判断し「介護福祉施設」さらに「石材店」と，より高いところをめざしました。高台にたどり着いたその数十秒後に，すぐ近くまで津波が到達し，まさに危機一髪だったそうです。

もし，「ございしょの里」にたどり着いたときに「もう大丈夫」と避難行動を終えていたなら，多くの尊い命が失われていたかもしれません。今，自分たちにできる最善をつくすことが釜石の奇跡を産んだのです。

○小中学生が最初に
避難してきた場所（ございしょの里）



○小中学生が駆け上がっていった避難路

【率先避難者たれ】

釜石東中学校では，教師の「逃げろ」という一声で，運動部員を先頭に予め決めておいた避難場所（ございしょの里）まで走り始めました。さらに「津波が来るぞ。逃げろ。」と鵜住居小学校の子どもたちに声をかけながら走りました。

一方，鵜住居小学校では，中学生が避難していく様子を見て，すぐに校外への避難を決断し，後に続いたのです。釜石東中学校の生徒たちは，鵜住居小学校の児童にとってまさに「率先避難者」となったのです。

さらに，地域のおじいちゃん，おばあちゃんも小中学生の後についていきました。鵜住居保育園の保育士さんも，子どもたちを連れて坂道を登りはじめました。その子どもたちを中学生が抱っこして，予め決めておいた避難場所の「ございしょの里」まで行きました。

中学生が「率先避難者」としてとった行動が，小学生だけでなく地域の人たちの多くの命を守ったのです。

釜石市で行われた防災教育を参考に，学校や地域の実情に応じた防災教育を展開していくことが大切です。

文章，図並びに写真は「群馬大学社会工学研究室ＨＰ」より

１０　徳島県の地勢，地質，気象

（１）地　勢

本県は山地が多く，全面積4,144.95 平方キロメートルのおよそ８割を占めている。1,000メートルを越える山も数多い。県内の最も高い山は四国山地中の剣山で，標高1,955メートル，四国第２の高山である。この剣山を中心とした剣山地は県を南北に分ける分水嶺で，その北方を流れる吉野川は水源を遠く高知県に発し，本県に入って大歩危・小歩危の深い峡谷を作り，三好市池田町から東に転じ，東流するにしたがって広く，くさび形の徳島平野を作っている。吉野川の北，讃岐山脈は一般に低く，山麓は扇状地が発達し，土地は高く，吉野川下流の低地は勝浦川及び那賀川下流の低地と共に広く水田地帯となっている。分水嶺の南斜面山地は豊富な森林地帯となっており，広い平地は少なく，阿南市以南では山地が直接海にせまった岩石海岸で，東北の砂浜海岸とは著しい対照をなし，海は深く，港湾として適当な地形をもっている。

（２）地　質

徳島県は和泉帯，三波川帯，秩父帯，四万十帯に分けられ，各帯はこの順に北から南へ配列している。

和泉帯は阿讃山脈に沿って東西に延びており，上部白亜系の和泉層群が分布している。この南縁には西南日本内帯と外帯を境する中央構造線が走っており，吉野川北岸に沿ってその露頭がみられる。和泉層群は厚い砂岩層，砂岩泥岩互層，泥岩層よりなっている。阿讃山脈の南麓には洪積世の扇状地が発達している。

三波川帯は四国山地北斜面にあたり，緑色片岩，石英片岩，黒色片岩，砂質片岩等よりなる。古生層が変成作用を受けてできた結晶片岩である。大歩危付近には砂質片岩が露出し，その一部は学術上極めて貴重な礫岩片岩をはさんでいる。三波川帯の南縁には御荷鉾構造線が走り，これに沿って御荷鉾緑色岩類が分布している。三波川帯には地すべり地が多く，特に御荷鉾構造線に沿う地帯には地すべり地が密集している。

秩父帯は四国山地南斜面（勝浦川・那賀川流域）にあたる。シルリア紀一二畳紀のいわゆる秩父古生層が広く分布し，厚い石灰岩をはさんでいる。これら古生界の間には中生界（三畳紀，ジュラ紀，白亜紀）が分布しており，勝浦川地域では白亜系の化石が，那賀川流域では三畳系の化石が多数産出し，学術上貴重である。

四万十帯は那賀川以南の海部山地にあたり，白亜系，古第三系が分布している。化石に乏しい砂岩泥岩互層，砂岩層よりなっている。

（３）気　象

徳島県は，大きく２つの気候区に大別される。

北部（特に西部）は瀬戸内気候に属し，南部は太平洋気候に属している。北部は全国的に見て少雨地域だが，南部は日本でも有数の多雨地域に入り，日降水量の日本記録を有している。県の面積の約８割を山地が占めることや，県西部の山間部では沿岸部に比べ気温の変動が大きいなど，気象特性は非常に複雑になっている。これらの気候特性が徳島県を自然災害の多発する地域にしている。

徳島県における年平均気温は，県東部の海岸地方では約16℃で，県西部の山沿い地方に向かうに従い次第に低くなる傾向にある。県内で最も寒冷地にあたる剣山周辺（剣山山頂は除く）の山麓地方の年平均気温は約12℃で，海岸地方と比べ４℃の差がある。月平均気温の差は，夏は小さく，冬は大きくなり，ときには７℃にも達する。

徳島県の年平均降水量（１９７９年から2000年）は，南部地方で約3,000～3,500ｍｍ，剣山の北側で約1,300ｍｍなっている。剣山系を境として，県北部の降水量は，県南部の降水量の２分の１以下となっている。雨の多い年には剣山系南側では，4,000～5,000ｍｍに達することもある。昭和51年９月には台風第17号と前線による長雨で，木頭村日早（現那賀町）では，８日～13日に2,781ｍｍの降水量が観測され，11日の日降水量1,114ｍｍに達した。平成16年には台風第10号（７月31日～８月２日）による大雨で，木頭村海川（現那賀町）で日降水量1,317ｍｍ（８月１日）を観測し日本記録を更新した。木沢村（現那賀町）で土石流により２名が犠牲になるなど甚大な被害が発生した。

大雨の発生原因としては，発達した低気圧や前線に向かって吹き込む南よりの暖かく湿った空気が海岸と山地の斜面に当たる気象状況のときには，雨雲が発達し大雨を降らせる。また，台風が徳島県の南から西側を通り北上する時にも同様に大雨を降らせる。徳島県で大雨が降りやすい時期は，梅雨前線や秋雨前線が四国付近に停滞する時期と，台風が日本付近を通ることが多い時期の５月から10月頃である。発達した台風が接近して通り，風が湾や海峡に吹き込むようなときは，高潮の発生するおそれもある。過去に第２室戸台風（昭和36年９月16日）による高潮で日和佐以北の海岸部で甚大な被害が発生した。

１１　平成２４年度市町村及び消防本部連絡先一覧表

【市町村】

機　関　名	所管課（室）	住　　所	電話番号	夜間休日等	F　A　X	E-mail	衛星携帯電話
徳島市	危機管理課	徳島市幸町2-5	(088)621-5526	(088)621-5111	(088)625-2820	kiki_kanri@city.tokushima.lg.jp	
鳴門市	危機管理課	鳴門市撫養町南浜字東浜170	(088)684-1217	(088)685-2009	(088)684-1336	kikikanri@city.naruto.lg.jp	
小松島市	市民安全課	小松島市横須町1-1	(0885)32-2227	(0885)32-2111	(0885)32-3522	bousai@city.komatsushima.tokushima.jp	080-2990-0219,881623413931
阿南市	防災対策課	阿南市富岡町トノ町１２－３	(0884)22-9191	(0884)22-1111	(0884)22-6772	bosai@city.anan.tokushima.jp	8816-4144-6677
吉野川市	防災対策課	吉野川市鴨島町鴨島115番地1	(0883)22-2235	(0883)22-2222	(0883)22-2248	bousai@city.yoshinogawa.lg.jp	
阿波市	防災対策課	阿波市阿波町東原173	(0883)35-4166	(0883)35-4111	(0883)35-3942	bousai@city.awa.lg.jp	
美馬市	総務課	美馬市穴吹町穴吹字九反地5番地	(0883)52-1677	(0883)52-1212	(0883)52-5758	soumu@city.mima.lg.jp	090-5911-6367
三好市	危機管理課	三好市池田町シンチ1500-2	(0883)72-7625	(0883)72-7600	(0883)72-7203	kikikanri@city.tokushima-miyoshi.lg.jp	8816-5147-1689
勝浦町	総務税務課	勝浦郡勝浦町大字久国字久保田3	(0885)42-2511	(0885)42-2511	(0885)42-3028	k_hitomi@town.katsuura.lg.jp	
上勝町	総務課	勝浦郡上勝町大字福原字下横峯3-1	(0885)46-0111	(0885)46-0111	(0885)46-0323	mineshita_t@kamikatsu.jp	090-1006-2243
佐那河内村	総務企画課	名東郡佐那河内村下字中辺71-1	(088)679-2113	(088)679-2111	(088)679-2125	soumu@vill.sanagochi.lg.jp	
石井町	危機管理対策室	名西郡石井町高川原字高川原121-1	(088)674-1171	(088)674-1111	(088)675-1500	momoi_jun_t@town.ishii.lg.jp	
神山町	総務課	名西郡神山町神領字本野間100	(088)676-1111	(088)676-1111	(088)676-1100	soumu@town.kamiyama.lg.jp	090-7624-1438
那賀町	地域防災課	那賀郡那賀町和食郷字南川104番地1	(0884)62-1121		(0884)62-1177	chiiki@town.tokushima-naka.lg.jp	
那賀町　相生支所	地域振興室	那賀郡那賀町延野字王子原31-1	(0884)62-1111		(0884)62-1115		
那賀町　上那賀支所	地域振興室	那賀郡那賀町小浜151	(0884)66-0111		(0884)66-0602		
那賀町　木沢支所	地域振興室	那賀郡那賀町木頭字前田43-1	(0884)65-2111		(0884)65-2114		
那賀町　木頭支所	地域振興室	那賀郡那賀町木頭出原字ｺﾏﾀﾞ34番地	(0884)68-2311		(0884)68-2125		
牟岐町	総務課	海部郡牟岐町大字中村字本村7-4	(0884)72-1111	(0884)72-3411	(0884)72-2716	mugisoumu@town.tokushima-mugi.lg.jp	
美波町	消防防災課	海部郡美波町奥河内字本村18-1	(0884)77-3619	(0884)77-1111	(0884)77-1666	shobo@town.minami.lg.jp	090-4973-4337
美波町　由岐支所	住民室	海部郡美波町西地50-1	(0884)78-2211	(0884)78-1111	(0884)78-1050		090-5717-2099
海陽町	企画防災課	海部郡海陽町大里字上中須128	(0884)73-4163	(0884)73-1234	(0884)73-3097	bousai@town.kaiyo.lg.jp	080-1993-0439
松茂町	総務課	板野郡松茂町広島字東裏30	(088)699-8710	(088)699-2111	(088)699-5010	soumu@town.matsushige.tokushima.jp	
北島町	総務課	板野郡北島町中村字上地23-1	(088)698-9801	(088)698-2410	(088)698-3642	soumu@town.kitajima.lg.jp	
藍住町	総務課	板野郡藍住町奥野字矢上前52-1	(088)637-3111	(088)637-3111	(088)637-3154	soumu@town.aizumi.tokushima.jp	
板野町	総務課	板野郡板野町吹田字町南22-2	(088)672-5980	(088)672-5998	(088)672-5553	soumu@town.itano.tokushima.jp	
上板町	総務課	板野郡上板町七條字経塚42	(088)694-6801	(088)694-3111	(088)694-5903	so@townkamiita.jp	
つるぎ町	危機管理課	美馬郡つるぎ町貞光字東浦1-3	(0883)62-3111	(0883)62-3111	(0883)62-4944	kikikanri@town.tokushima-tsurugi.lg.jp	8816-5145-7204
東みよし町	総務課	三好郡東みよし町加茂3360	(0883)82-6303	(0883)82-6310	(0883)76-1010	soumu01@town.higashimiyoshi.lg.jp	

【消防本部】

機　関　名	所管課（室）	住　　所	電　話	電話・夜間休日	F　A　X	E-mail	衛星携帯電話
徳島市消防局	警防課	徳島市新蔵町1-88	(088)656-1192	(088)656-1190	(088)656-1202	tusin_sirei@city.tokushima.lg.jp	
鳴門市消防本部	予防課	鳴門市撫養町南浜字東浜170	(088)684-1335	(088)685-2009	(088)685-4313	yobo@city.naruto.lg.jp	
小松島市消防本部	消防本部	小松島市横須町1-1	(0885)32-0119	(0885)32-0119	(0885)32-3595	shoubou@city.komatsushima.tokushima.jp	080-2991-0225,881623413933
阿南市消防本部	消防本部	阿南市長己町１番地３３	(0884)22-1120	(0884)22-1120	(0884)22-1190	anan119@crux.ocn.ne.jp	001010-8816-5142-1691
美馬市消防本部	消防本部(署)	美馬市脇町字拝原1742-1	(0883)52-3025	(0883)52-3025	(0883)53-9550	syoubou@city.mima.lg.jp	090-7626-1068
美馬市消防本部 木屋平分署	木屋平分署	美馬市木屋平川井161	(0883)68-2100		(0883)68-2100		
美馬西部消防組合	消防本部	美馬市美馬町字天神119-1	0883-63-2214	0883-63-2214	0883-63-5601	mima119@shirt.ocn.ne.jp	
美馬西部消防組合 一宇分署	一宇分署	美馬郡つるぎ町一宇字赤松541-2	(0883)67-2938		(0883)67-2939	ichiu119@opal.ocn.ne.jp	
板野東部消防組合	消防本部警防課	板野郡北島町北村字大関11-1	(088)698-9903	(088)698-9119	(088)697-3012	keibobe@itanotobu-fire.jp	
板野西部消防組合	消防本部	板野郡板野町羅漢字前田35	(088)672-0198	(088)672-0198	(088)672-2977	itasei@mail.netwave.or.jp	
名西消防組合	消防本部	名西郡石井町高川原字高川原66-8	(088)674-6788	(088)674-6788	(088)674-6706	mfd.honbu@shirt.ocn.ne.jp	
海部消防組合	消防本部	海部郡牟岐町大字川長字新光寺98-1	(0884)72-0600		(0884)72-2999	fdkshi19@mat.ne.jp	
徳島中央広域連合	消防課	吉野川市鴨島町上下島431-17	(0883)26-0119	(0883)24-1702	(0883)24-6090	tokushima.chuo.fd@titan.ocn.ne.jp	
みよし広域連合	消防本部	三好郡東みよし町足代345-1	(0883)76-5119	(0883)76-5118	(0883)76-5120	honbu@miyoshikouiki.jp	